

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

- ・香川県医師会代表（外科医）
 - ・香川県学校医代表（小児科医）
 - ・香川県在宅保健師会代表（会長）
 - ・香川大学医学部附属病院がん相談支援センターがん看護専門看護師
 - ・香川県小学校教育研究会（学校保健部会長）
 - ・香川県中学校教育研究会（保健体育部会長）
 - ・香川県高等学校教育研究会（保健体育部会長）
 - ・香川大学医学部代表（大学教授）
 - ・香川大学医学部代表（大学准教授）
 - ・保健所（保健センター）代表（職員）
 - ・香川県PTA連絡協議会代表（副会長）
- （関連組織） 香川県医師会 香川県健康福祉総務課 香川県PTA連絡協議会

2. 開催時期、検討内容

○第1回協議会（10月：紙面会議）

- ・令和2年度香川県がん教育協議会設置要綱と委員の紹介
- ・令和2年度香川県教育委員会主催の香川県がん教育総合支援事業計画の説明

○第2回協議会（2月：香川県健康福祉総務課主催香川県がん教育推進委員会と兼ねる）

- ・令和2年度ゲストティーチャー派遣事業の実施状況について
- ・新学習指導要領の改訂について
- ・香川県内におけるがん教育の実施状況等について
- ・今後のがん教育の方向性について

① 教育委員会としての取組

○がん教育研修会（対象：小中高の教職員、各市町教育委員会、香川県がん教育推進委員等）

本研修は、新学習指導要領に対応したがん教育の実施に向けて、教職員のがんに関する知識・理解を深めるとともに、県下の学校におけるがん教育の普及・啓発を図ることを目的として毎年開催していたが、令和2年度はオンライン研修とし、YouTubeに講師の講演動画を限定公開し、各校において視聴できるように、体制を整備した。

図1に示したように、本県では高等学校におけるがん教育の実施率が低いことやゲストティーチャーとの実践例が知りたいという意見があったことから、県外でがん教育を実践された小学校及び高等学校の現職教員を講師とし、講演を依頼した。



令和元年度県内におけるがん教育実施調査より

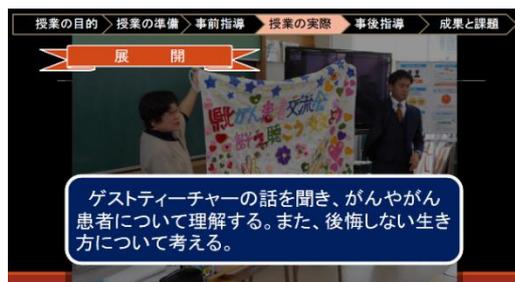
○小学校

講師 宮崎県 綾町立綾小学校 教諭 雨崎 雄 氏

演題 がん教育実践報告「学校教育活動全体を通して学びを深める『がん教育』の在り方」

講演内容

- 1 授業の目的
- 2 授業の準備
 - (1) 外部講師との連絡調整
 - (2) 児童の実態把握
 - (3) 家庭への連絡と児童への配慮
- 3 事前指導
- 4 授業の実際
- 5 事後指導
- 6 成果と課題



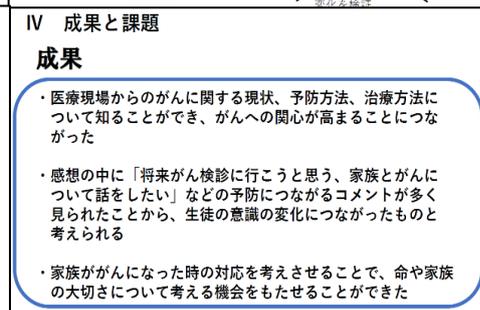
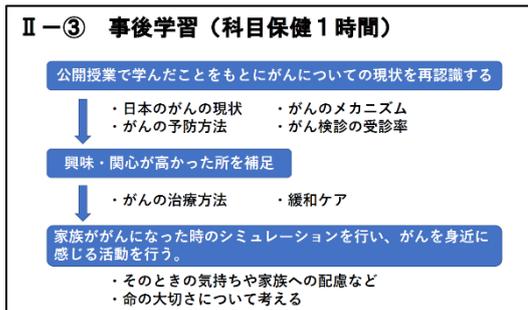
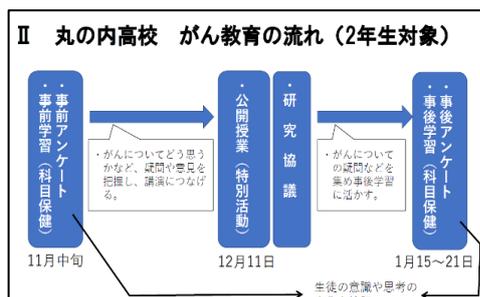
○高等学校

講師 高知県 高知丸の内高等学校 教諭 上岡 法政 氏

演題 外部講師を活用したがん教育の実践

講演内容

- I がん教育の目的
- II 授業の準備
 - ①事前学習・アンケート
 - ②公開授業・研究協議
 - ③事後学習・アンケート
- III 生徒の意識の変容・思考の変化
- IV 成果と課題



② 保健部局や地域の専門機関等との連携

○「授業者研修会」

香川県では、県健康福祉部と連携し、在宅保健師会やがん診療連携拠点病院等の協力を得て、希望する中学校に保健師や看護師をゲストティーチャーとして派遣している。そこで、毎年6月にゲストティーチャーとして派遣される保健師や看護師などを対象に、「授業者研修会」を開催し、新学習指導要領におけるがん教育の位置づけや授業での留意点等を説明していたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から紙面での資料提供とし、新規にゲストティーチャーに登録された講師は、関係学校の協力のもと、他のゲストティーチャーの授業を参加して、がん教育における授業のポイントを学ぶ機会を設けた。

(2) モデル校における取組

①モデル校選定の理由

県立高等学校からモデル校を選定し、がん教育の研究授業を公開して県内の高等学校におけるがん教育推進を図ることとした。

②モデル校の決定と研究授業の内容

- ・モデル校：香川県立高松東高等学校
- ・研究授業日：令和2年10月27日（火）保健
- ・学年：1年6組計37名

※ 新型コロナウイルスの感染症対策として授業の公開はせず、校内研修と香川県がん教育協議会委員（委員長のみ）、教育委員会事務局が参観することとした。

③ゲストティーチャーの選定

香川大学 医学部 臨床腫瘍学 教授

香川大学医学部附属病院 がんセンター長

辻 晃 仁 氏

- ・健康福祉部より推薦を受け、ゲストティーチャーの選定を行い、ゲストティーチャーと学校が行う事前打ち合わせについて調整を行った。

④授業の目的と内容

- ・本授業は、文部科学省が作成したがん教育の資料や動画を使いながら、がんのしくみやがんとともに生きる社会づくりのために自分になにができるか、考える授業をめざした。
- ・ゲストティーチャーからは、がん治療の最新情報やがん患者の思いについて、紹介があった。

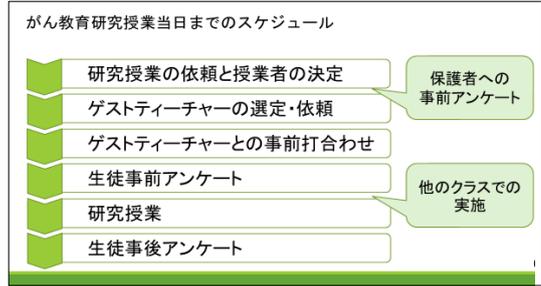
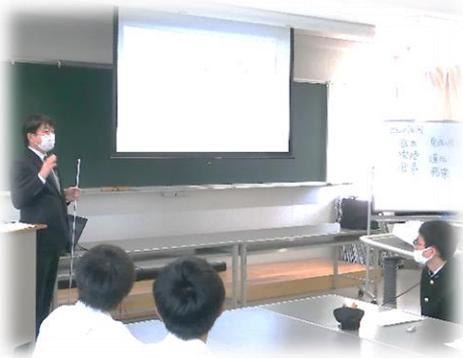


図2 令和元年度県内におけるがん教育実施調査より

表1 モデル校でのがん教育研究授業学習指導案

指導過程				
	学習内容・活動	指導上の留意点	評価の観点	
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶、出欠確認。 ○本時の学習内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人ががんを患っていたり、亡くなったたりしている人がいるかもしれないが、本時はがんという病気について正しく理解するための授業であることを説明する。 ・ゲストティーチャーの辻先生を紹介し、辻先生から自己紹介をしていただく。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを配布し、パワーポイントを見ながら、日本では2人に1人の割合でがんになっており、3人に1人はがんで亡くなっていることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・がんはとも身近な存在であり、自分や自分の周囲の人がいつなってもおかしくないということを理解させる。 		
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○がんのしくみについて理解する。 ・パワーポイントを見ながらがんのしくみと発癌要因について確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・細胞の変異が原因であることを理解させて、生きることによって変異の数も増えるため、がんは誰もがなる可能性を持っていることを認識させる。 		
	<ul style="list-style-type: none"> 【発問】がんの原因は何だろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・がんの原因は生活習慣・細菌・ウイルス・遺伝などがあることを理解させる。 ・長生きも原因の1つといえることや、原因のわからないがんもあることに触れる。 		
40分	<ul style="list-style-type: none"> 【発問】1つのがん細胞が1cmの大きくなるのにどれぐらいの時間がかかるだろうか。 ・指名された人は発表する。 ・パワーポイントを見ながら正解を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1つのがん細胞が1cmの大きくなるのに10～20年かかり、その後は1～2年で2cmになり、自覚症状が出現してくるため、症状が無くても検診を受けることで早期に発見することが重要であることを理解させる。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ○がんの治療について理解する。 ・パワーポイントを見て辻先生の話を聞きながら、がんの治療法について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントを使って外科治療、抗がん剤治療、放射線治療について説明してもらい、それぞれどのような方法でがん細胞を取り除くのが生徒が理解できるようにする。 ・より高い治療効果を目指して、3つの治療法を組み合わせることで治療すること(集学的治療)や、緩和ケアなど様々なアプローチが必要であることを理解できるようにする。 		
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○がん治療で大切なことについて。 ・がん患者のインタビュー動画を見て周囲の人々の関わりについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・患者のインタビューから、その思いについて触れ、周囲の人々の理解や支えが患者の生活の質の維持向上のために大切なことを確認させる。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに自分の考えを記入して、グループで意見交換をする。 ・何名か自分の意見を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・がん患者のさまざまな願いに気づき、自分の家族や身近な友人ががん患者となった際に、どのように接していくべきかを考えられるようにする。 ・辻先生と机間巡視をして、グループでの話し合いが活発になるよう言葉掛けを行う。 ・がんを正しく理解することや、がん患者の治療への向き合い方を尊重することが大切であることを確認する。 		
5分	<ul style="list-style-type: none"> ○本時のまとめをする。 ・パワーポイントの空欄にどのような言葉が入るか、本時の内容を振り返って考える。 ・指名された何名かが発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲の人間に、がんについての正しい知識と理解があり、がん治療に協力を得られるといったことが、誰もが暮らしやすい社会に繋がることを確認する。 ・授業の最後に、辻先生より最新のがん治療について話してもらった。 		

2. 事業の達成度について

(1) モデル校における取組の成果

○生徒アンケート（事前事後）より 対象 37 名

- ・「早期発見すれば、がんは治りやすい」という質問に対し、図3のとおり、成果率が86.5%から100%に上昇した。
- ・がんの治療方法はいくつかあるが、「医師が決めるものである」という設問に対し、授業前はどちらかといえばそう思わない、思わない、つまり「治療はがん患者が選択する」という意思表示をした者が、65%いたが、授業後は73%に増えた。これは、ゲストティーチャーの医師よりさまざまな治療方法があり、その人にあった治療法を本人と医師が相談して決定していくという授業内容を覚えている生徒が多いことが要因と考えられ、生徒の感想からもうかがえた。
- ・「がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思うか」という設問に対し、思わないという回答が0パーセントになった。

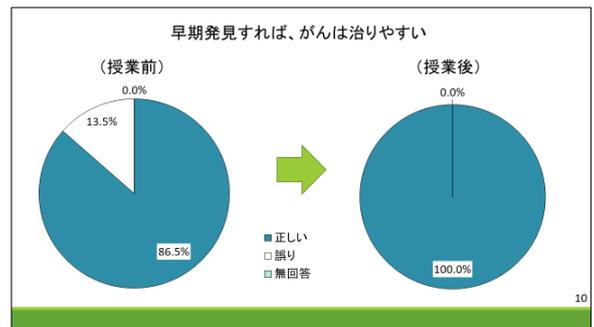


図3 早期発見すれば、がんは治りやすいか

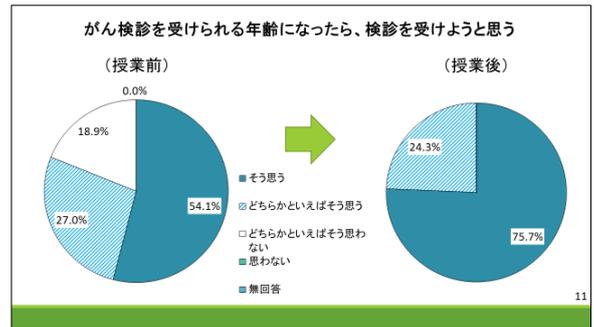


図4 がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思うか

(2) がん教育研修会

- ・令和2年度は、集合型研修ではなく、オンライン研修としたことで感、新型コロナウイルスに対する感染拡大防止に効果があった。
- ・オンライン研修の実施に向け、環境を一部整備できたことで、今後研修会の開催方法に選択の幅を持たすことができた。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

○今後の課題及び手立て

1. 小学校及び高等学校におけるがん教育の普及（国費）
 - ・新学習指導要領の内容を踏まえたがん教育の実践が必要であるため、ゲストティーチャーを小学校及び高等学校へ派遣する。
2. がん教育研修会の開催（国費）
 - ・養護教諭以外の教員の参加率が低いため、特に中学校及び高等学校については多くの保健体育科教員の参加が得られるような働きかけを行う。
 - ・オンライン研修の拡充に向け、市町教育委員会と協力し、更に環境整備を行っていく。
3. 外部講師のリスト化推進
 - ・「ゲストティーチャー派遣事業」は中学校を対象としているが、今後は、全校種に対応した外部講師リストの作成を検討していく。

1 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

県内の学校において、がんに関する教育を推進するための支援体制や具体的な取組についての検討及び普及啓発を行うための方策等を関係者が協議した。

1. 構成員

全体で8名

(内訳：学識経験者(大学准教授)1名、医療関係者(がん専門医・放射線診断部長)1名、がん患者会関係者1名、学校関係者(県PTA連合会副会長、県立学校長、公立中学校長)3名、モデル校所管の市町教育委員会担当者1名、県保健福祉部健康増進課担当係長1名)

No	氏名	所属及び役職	備考
1	日野 克博	学識経験者	愛媛大学教育学部教授
2	菅原 敬文	医療関係者	四国がんセンター医師
3	吉森 公恵	がん患者会関係者	おれんじの会
4	山本 英二	保護者代表	愛媛県PTA連合会副会長
5	畦田 祐二	大洲市立肱東中学校	推進モデル校校長
6	川田 哲也	愛媛県立東温高等学校	推進モデル校校長
7	城戸 弘一	行政関係者	大洲市教育委員会
8	白石 拓也	行政関係者	県保健福祉部健康増進課

2 開催時期・検討内容

【第1回がん教育推進協議会】

8月27日(木) 14:00～15:30

協議内容

- ・ 令和2年度事業概要について
- ・ モデル校での具体的な進め方について
- ・ 各学校種におけるがん教育の取扱いについて
- ・ がん教育指導参考資料の活用状況・活用方法について

【参加人数：大学関係者・医療関係者・モデル校関係者等 7名】

【第2回がん教育推進協議会】 書面開催へ変更

1月13日(水) 14:00～15:30

協議内容

- ・ 令和2年度事業報告
- ・ がん教育モデル校における実践報告
- ・ 成果と課題
- ・ 学校における今後のがん教育の進め方について

② 教育委員会としての取組

○ 各学校におけるがん教育の推進に向けて

新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みて、県下全域の教職員を対象とした参集型によるがん教育研修会は中止とした。

新たに、中学校保健体育科教員による「がん教育推進チーム」を編成し、外部講師を活用した授業展開や、各種資料の活用方法等について研修を深めるとともに、がん教育推進チーム（協力校）において実施するがん教育を互いに参観し合い、授業展開等について協議を行った。

また、各学校における、より積極的ながん教育の展開へつなげるため、協力校の授業の様子を愛媛CATVの協力を得て撮影・編集し、作成した映像資料を次年度の研修会等で活用していくこととしている。

○ 教育活動全体におけるがん教育に向けて

専門医、がん患者会関係者等と連携したがん教育を進める中で、文部科学省や県が作成した資料の活用方法や、効果的な提示の方法等について協議し、公開授業等を通してモデルプランを提案した。

また、公開授業後の研究協議において、保健体育科以外の取組や地域・保護者との連携等について参加者と情報交換を行い、教育活動全体におけるがん教育へとつなげた。

○ がん教育推進リーダーの育成

本年度は、新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑みて、「がん教育指導者研修会」と「がん教育推進モデル校1校の講演会・公開授業」を中止とした。そのような中、大人数による参集型の一斉研修会ではなく、学校単位や少人数での研修やチーム会議を複数回開催し、「持続可能ながん教育」について実践協議を重ね、県内各地域における「がん教育推進リーダー」の育成に努めた。

がん教育推進リーダーは、県内各地区の中学校保健体育科教員4名で編成し、互いの授業を参観し合い、外部講師や資料の活用について協議を重ねた。

○ 映像資料の作成

当初計画をしていた事業の中止を受け、実践報告書形式での周知ではなく、今後、各種研修会において活用が可能な、映像資料の作成に切り替え、3パターンの資料を作成した。

- ① 四国がんセンター医師の講演映像（30分）
- ② 保健体育科担当教員と、四国がんセンターボランティア（外部講師）の、T・Tによる授業映像（50分）
- ③ ②における外部講師の講話映像（20分）

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

保健福祉部と連携をし、外部講師を対象とした研修会等のもち方について検討した。

また、四国がんセンターの医師が、がん教育推進モデル校において講演をした様子と、四国がんセンターボランティアで、がんサバイバーの外部講師が、保健体育科の授業において教師とT・Tを行った様子を愛媛CATVの協力を得て、撮影・編集し、映像資料を作成した。これらを、今後、外部講師対象の研修会等で活用し、授業イメージの伝達や学校における講演内容（質）の担保等につなげていきたいと考えている。

(2) がん教育推進モデル校における取組

【大洲市立肱東中学校】(中止)

講演会

開催日	令和2年12月8日(火)
対象	全校生徒・教職員
講師	四国がんセンター放射線診断部長 菅原 敬文 氏 NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会 吉森 公恵 氏

公開授業

開催日	令和2年12月14日(月)
学年・組	第3学年1組
教科	保健体育科
授業内容	がん患者とともに生きる社会
授業者	保健体育科 教諭 岡田 栄治
指導助言	愛媛大学教育学部 教授 日野 克博

【愛媛県立東温高等学校】

講演会

開催日	令和2年10月22日(木)
対象	1年次7組、教職員
講師	四国がんセンター放射線診断部長 菅原 敬文 氏 NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会 吉森 公恵 氏

公開授業

開催日	令和2年11月19日(木)
学年・組	1年次7組
教科	保健体育科
授業内容	日本における「がん」の現状
授業者	保健体育科 教諭 井上 大輔
指導助言	愛媛県教育委員会保健体育課 指導主事 大野小百合



(3) その他

がん教育推進チームによる取組

【協力校：愛南町立御荘中学校】

第1回外部講師打合せ

場 所：四国がんセンター

参加者：①外部講師 四国がんセンターボランティアグループふれ愛

代 表 塚野 加代 氏

②授 業 者 愛南町立御荘中学校 主幹教諭 山本 雅貴 氏

③愛媛CATV（撮影・編集スタッフ）

④愛媛県教育委員会保健体育課 指導主事 大野小百合

内 容：授業展開と役割分担等、撮影動画内容について

第2回外部講師打合せ

場 所：四国がんセンター

参加者：①外部講師 四国がんセンターボランティアグループふれ愛

代 表 塚野 加代 氏

②授 業 者 愛南町立御荘中学校 主幹教諭 山本 雅貴 氏

③愛媛県教育委員会保健体育課 指導主事 大野小百合

内 容：保護者アンケートによる情報共有、授業展開や時間配分の確認等

公開授業

開催日	令和2年11月20日（金）
学年・組	第2学年2組
教 科	保健体育科
授業内容	がん患者とともに生きる社会
授 業 者	保健体育科 主幹教諭 山本 雅貴
指導助言	愛媛県教育委員会保健体育課 指導主事 大野小百合

映像資料確認・編集

場 所：愛媛CATV

参加者：①外部講師 四国がんセンターボランティアグループふれ愛

代 表 塚野 加代 氏

②授 業 者 愛南町立御荘中学校 主幹教諭 山本 雅貴 氏

③愛媛県教育委員会保健体育課 指導主事 大野小百合

内 容：編集動画の確認

2. 事業の達成度について

[モデル校・推進協力校における成果]

- ・ 講演会において「がんセンターの医師」と「がん経験者」の話を同時に聞くことができたことで、提示される様々な数値を、より身近なものとして受け止めることができた。
- ・ 保健体育科の授業と講演会を組み合わせることで、学習をした「知識」が教科書の中だけのものではなく、「具体的な生活」と結び付き、自分事として考えることができた。
- ・ がんは身近な病気であると捉えていない生徒たちが、保健体育科の授業や専門家の講演を聞くことにより、学習の必要性を感じ、正しい知識を得ることができた。
- ・ がんについてはこれまで「特別な病気」「治らない病気」という認識をしていた生徒が多かったが、がんという病気について正しい知識を持つことができた。
- ・ 生活習慣病の側面から生徒に「誰でも罹患する可能性がある」病気であると理解させることができた。
- ・ がん患者の方が病気と闘いながら前向きに生きる姿勢に感銘を受け、自他の命を大切にしていこうという気持ちや、人と人が支え合っていくことで、患者さんが安心して暮らせる社会を実現していこうという意欲が高まった。
- ・ 教職員にとっても今後の教育活動に生かすことができる内容であり、授業を通して、より生徒理解へとつながった。

生徒の感想より抜粋

・ 私の母は、多発性硬化症という病気です。塚野さんと同じように、死を何度も考えたそうです。母はいつも「お母さんが死ぬまでにいろいろ覚えなさい。」と言ってきます。私もつらいですが、塚野さんと同じように母もつらいんだな、と思いました。

・ 私の母は乳がんでした。当時私は5歳で、がん患者である母を氣遣ってあげられるほど大人ではありませんでした。周りの大人に迷惑をかけまいと声を押し殺して泣いた記憶があります。今でも、自分の出産が病気の引き金になったのではないかとつらく悩みます。でも、今回のお話を聞いて、前を向けた気がします。体験したからこそ生きることの尊さがわかる方からの貴重なお話を聞くことができ、うれしかったです。



生徒の感想より抜粋

・ ぼくは、がんになるのは誰のせいでもなく、仕方ないことが分かりました。でも、予防をすることができるということを知りました。がんを予防するためには、がん検診による早期発見が大切ということがわかりました。

・ 自分はがんにかかる、体全体が痛くなったり苦しくなったりすると思っていたけれど、精神的にも苦しくなる病気で、自分だけでなく、家族や友達も苦しむと思いました。2分の1という確率を知って自分のこととして考えていこうと思いました。塚野さんの話を聞いて、改めてがんに対する意識を高めていき1日1日を大切に生きていきたいと思いました。



[指導参考資料活用における成果]

- ・ がん教育において取り扱う内容を盛り込んだ参考資料を活用することで、基本的な内容や共通内容を具体的に示すことができるため、各学校で取り組みやすくなり、がん教育の普及啓発ができた。

[外部指導者の活用における成果]

- ・ 医療関係者とがん患者会関係者の委員の協力を得て、外部講師として医師及びがん経験者をモデル校における講演会に派遣し、モデル校の希望する内容について双方で系統性のある講演会を実施した。
- ・ 協力校において、保健体育科教員とがんサバイバーの外部講師がT・Tで授業を行い、学んだ知識を実践へとつなげる意識の向上が見られた。

[がん教育推進体制における成果]

- ・ 関係機関等（がん診療連携拠点病院、がん患者会、保健福祉部）との連携により、多面的ながん教育を推進することができた。

3. 今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

[令和2年度の課題]

- ③ 各種研修会において、養護教諭の参加が大半を占めている現状から、保健体育科教員への啓発が必要である。
- ④ がん教育の必要性についての意識には個人または学校において大きな差があるため、意識啓発が必要である。
- ⑤ モデル校が実践した具体的事例を普及啓発し、各学校が取り組みやすいがん教育のモデル提示が必要である。
- ⑥ 資料の活用方法や内容について、今後も更新・検討を重ねていく必要がある。
- ⑦ 家族にがん患者がいる生徒や家族をがんで亡くした生徒、治療中の生徒等への配慮について教職員の共通理解が必要である。
- ⑧ 生活習慣とがんを直接的に関連させた指導で終わらないよう、生活習慣病が主な原因にならないがんもあることを伝えていかなければならない。
- ⑨ 教科等横断的ながん教育を推進していくために、各学校の実態に応じて、全教職員を対象とした研修が必要である。
- ⑩ 外部指導者の活用について啓発するとともに、体制の整備を進める必要がある。

[令和2年度の課題を踏まえた令和3年度取組]

- ① 各種研修会の案内をする際、「保健体育科教員の積極的な参加」を明記し、各市町教育委員会を通して各学校へ送付し、参加状況に応じてモデル校の域内の学校へ再度、募集をかける。
- ② 各種研修会の中で「がん教育推進」について啓発をする時間を設け、学校全体で取り組むことへの意識啓発を行う。
- ③ モデル校の取組をまとめた実践事例集の中に、資料の活用方法等を具体的に示し、より分かりやすい資料作成を行う。
- ④ 平成28年度に県が作成した「指導参考資料」の更新について、2年度モデル校の実践結果などを踏まえて検討する。
- ⑤ モデル校への配慮例を、公開授業における研究協議の中で示し、各学校での実践へとつなげていく。
- ⑥ モデル校の講演会の中で、専門医から「生活習慣病が主な原因とならないがん」について説明を受けるとともに、保健体育科の授業においても資料を使って触れることとした流れを「がん教育指導者研修会」の実践発表に盛り込む予定である。
- ⑦ 公開授業や保健主事部会において全校職員が共通理解の上で取り組む重要性について啓発し、モデル校公開授業に管理職や教務主任等が積極的に参加するよう伝達していく。
- ⑧ 現在は、講演会講師として活用している外部講師を、今後は実際の授業においてT2の立場で活用していく方向で検討中である。また、各学校における積極的な活用につなげるため、体制の整備を進めていきたい。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- ・ 養護教諭と連携した授業実践
- ・ 外部講師を積極的に活用した授業実践
- ・ カリキュラムマネジメントを充実させ、教科横断的ながん教育の実践
- ・ 学校・家庭・地域が連携した取組
- ・ 県下各地区の保健体育科教員編成した「がん教育推進チーム」において、資料や外部指導者の活用について実践・検証を重ね、「がん教育推進リーダー」として、各地区でモデルプランの提示を行っていく体制の構築

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員（全員で11人）

高知大学医学部教授（がん拠点病院外科医師）、がんセンター長（がん診療拠点病院放射線科医師）、がん診療拠点病院院長（循環器内科医）、健診機関（外科医）、県医師会理事（学校医部会会長）、大学教授（看護学部）、がん患者会代表、がん教育推進校を所管する市町村教育委員会指導主事2名、県健康政策部健康対策課課長、県文化生活スポーツ部私学・大学支援課長

2. 開催時期、検討内容

〔第1回協議会〕

開催日：令和2年8月3日

協議内容：県内のがん教育実施状況とそれに基づくがん教育推進計画について情報共有し、意見をいただいた。その後、昨年度の外部講師による指導の成果と課題から、外部講師派遣体制の改善点等について協議した。

〔第2回協議会（書面開催）〕

開催日：令和3年2月

協議内容：令和2年度の事業実施報告及び外部講師によるがん教育を実施した学校（59校）の児童生徒への事前事後アンケート結果の分析を報告し、外部講師による指導の成果と課題・改善点について書面で意見をいただいた。

② 教育委員会としての取組

高知県がん教育プログラム（指導者用資料及び校種別のがん教育教材）を各学校へ配布・周知を図るとともに、外部講師派遣体制を整えることで、どの学校においても学習指導要領に示されている内容について指導を行うことができるよう取り組んだ。

また、地域連携推進事業として地域の保健部局や学校医、がん診療拠点病院等と連携を図りながら地域の課題を解決していくためにどのようながん教育を実施していくことができるか、協議会を設置して外部講師を活用したがん教育の内容や校種間連携、外部機関との連携体制について協議し、地域の課題や実態に応じたがん教育の実施に取り組んだ（四万十市、本山町に委託）。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

がん診療拠点病院及び大学並びに高知県医師会園医学校医部会等と連携を図り、学校と外部講師の打合せや事前事後アンケートの共有等、派遣体制を整えた上で、外部講師としてご協力をいただける方の外部講師リストを作成し、学校が希望する内容に応じた講師に依頼し、授業をしていただいた。

(2) モデル校における取組

〔高知県立高知北高等学校定時制 1～3学年対象 テーマ：健康教育に位置づけた「がん教育」の推進〕

・全体計画3時間

①科目保健1時間（1～2年）、特別活動1時間（3年）

1年生は科目保健の単元「生活習慣病とその予防」のなかで代表的な病気としてがんを取り上げ、その原因と主ながんについて学習した。2年生は単元「加齢と健康」で生活習慣病の予防と健康診断の項目で、がん検診について学んだ。3年生はホームルーム活動の時間を使い、公開授業の趣旨説明と事前アンケートを行い、がんについての知識、意識を確認した。

②特別活動2時間：外部講師を活用した授業（公開授業）

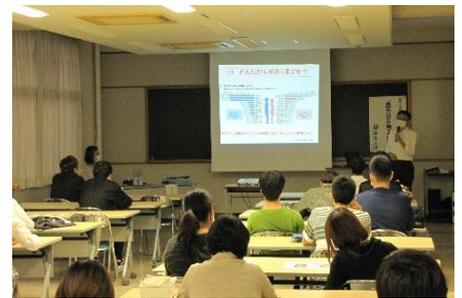
講師は高知大学医学部附属病院から2名の講師をお迎えし、生徒からの事前アンケートの質問に回答していただきながら、がんのしくみ・原因・予防・がん検診受診の重要性と最新の治療法などについて学習した。

また、がん患者への配慮や言葉がけなど支援する側の対応についても学んだ。

③科目保健1時間（1～2年）、特別活動1時間（3年）

公開授業終了後、事後アンケートを行った。

また、1～2年生は科目保健で、3年生はホームルーム活動で公開授業の内容を振り返り、がんの基本的な知識と検診を受診することの重要性について再度、確認を行った。



〔高知県立山田高等学校定時制 全学年対象 テーマ：健康教育に位置づけた「がん教育」の推進〕

・全体計画3時間

①科目保健1時間（1～2年）、特別活動1時間（3～4年）

生活チェックを実施し、現在の健康に関する意識調査を行った。また、喫煙や生活習慣に関する内容などに触れ、がんの発症に結び付く行動が習慣化していないかについて考えた。

②特別活動1時間：外部講師を活用した授業（公開授業）

高知大学医学部附属病院から医師3名を迎え、がんの基礎知識や治療法、たばこががんの関連、がん検診の大切さなどについてお話をいただいた。正しい知識を持つこと、健康な生活を送ること、検診を受けること、一人で抱え込まないこと、学んだことを周りの人に伝えていくことの大切さを学んだ。

③特別活動1時間

公開授業の感想文の記入と事後アンケートを実施した。

また、公開授業で学んだポイントを記録した保健だよりを配付し、学習の振り返りを行った。



(3) その他

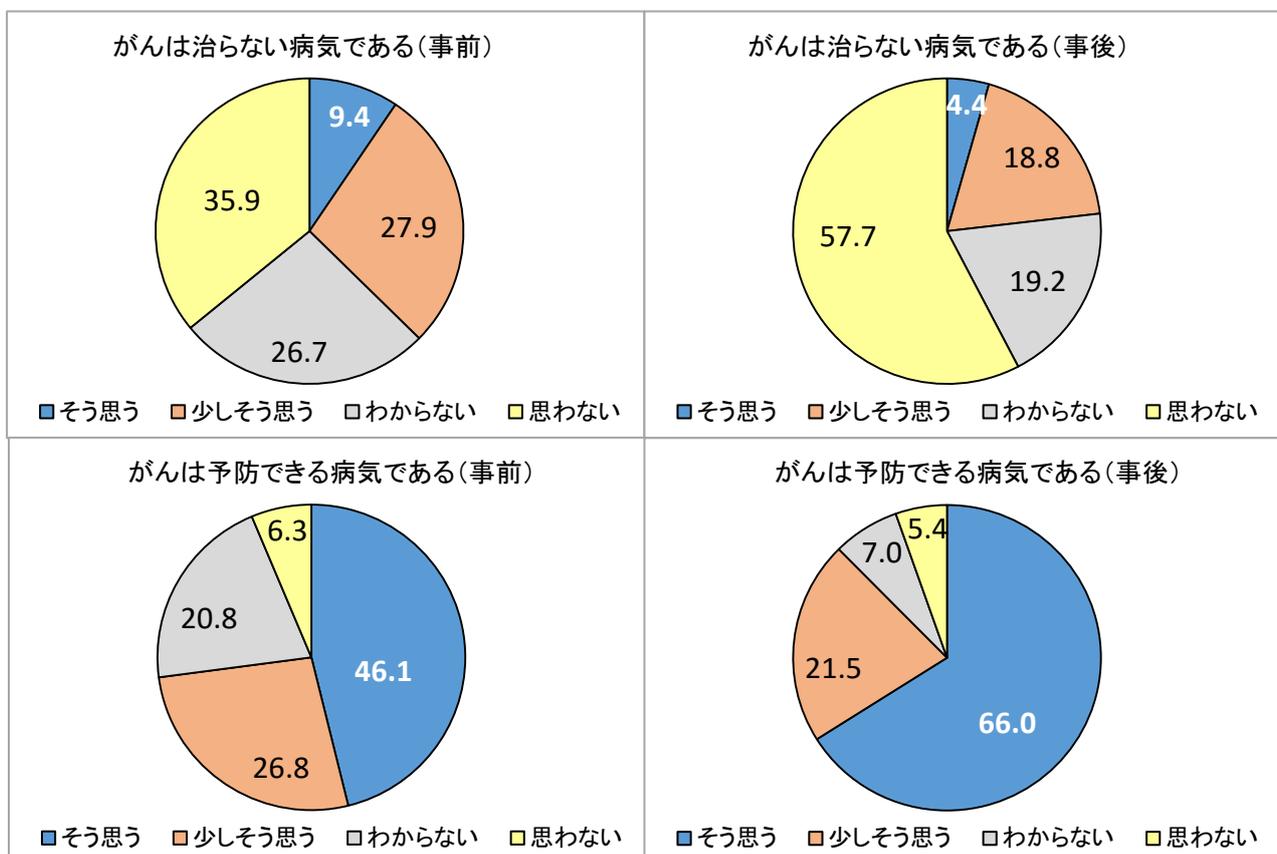
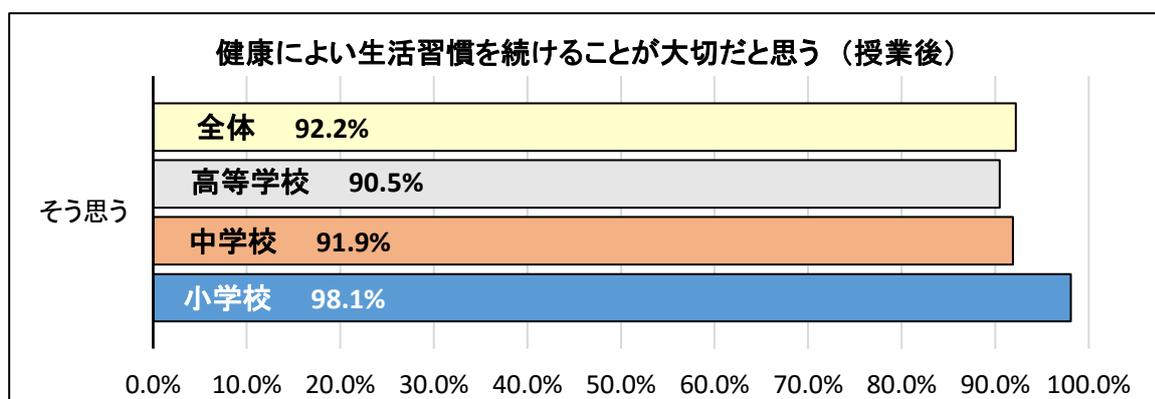
いずれの学校においても、外部講師を招聘した授業については、県内の全ての学校へ公開授業研修会として案内し、授業参観後、外部講師によるがん教育についての講話と参観者との意見交換会を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、校外からの参加を中止した。

2. 事業の達成度について

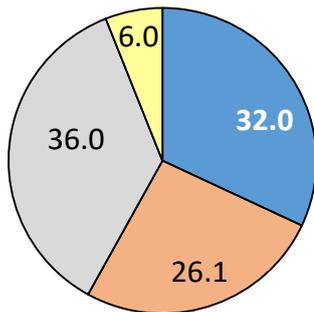
いずれの校種でも、授業内容を受けて、自分たちに今できる予防法として、健康によい生活習慣を続けることが大切であることが理解できていた。また、がんに関する知識について、事前事後アンケートを比較すると、いずれの項目も正しい知識を理解できている児童生徒が多かった。

これらの結果から、本県が目標としている「がんを教材とした健康教育」の実現に迫る効果的な指導が展開されていたことが分かる。

また、推進協議会からの働きかけ等により、外部講師として活躍していただける協力者が増加し外部講師を活用したがん教育を行う学校が徐々に増加していることや推進協議会において作成したがん教育教材を活用した教諭・養護教諭によるがん教育の実施が見られたこと、授業で児童生徒が正しい知識を身に付け家族とともにがんについて考えることができていること等、事業の目的に合致した取組を実施することができた。

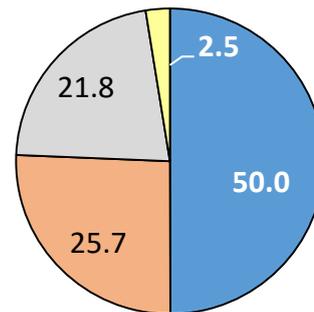


将来がんにかかるかもしれない(事前)



■ そう思う ■ 少しそう思う □ わからない □ 思わない

将来がんにかかるかもしれない(事後)



■ そう思う ■ 少しそう思う □ わからない □ 思わない

(*外部講師を活用したがん教育実施校でのアンケート実施人数 事前：1,239名 事後：1,159名)

3. 今後の課題及びその取組の方向性 (今回の事業により新たに見えた課題など)

令和3年度は、令和2年度に各校に配布した高知県がん教育プログラム(指導者用資料及び校種別がん教育教材)を活用して外部講師派遣事業やがん教育推進校での取組を実施し、その成果と課題を高知県がん教育推進協議会で検討した結果を踏まえ、引き続き外部講師派遣事業及びその推進と充実を図るためのがん教育推進協議会を県費で行っている。

今後の課題としては、外部講師を活用したがん教育の実施状況に地域で偏りが見られるため、実施が少ない地域でのがん教育の推進と充実を図ること、高知県がん教育プログラムを活用した教諭・養護教諭によるがん教育のより一層の推進があげられる。外部講師を活用した指導と教員による指導のバランスを図りながら、各校で行われるがん教育の質の向上を目指していきたい。

4. モデル校以外での取組について (課題や今後整理すべき事項など)

外部講師派遣事業を活用してがん教育を実施する学校においては、どの学校も事前事後アンケートの活用や打合せ資料の作成に取り組めており、学校が主体となって運営することや外部講師による授業に明確なねらいを持つことができる学校が増えてきているが、児童生徒の個別の心理面への配慮の方法に課題が残っている。

また、感染症予防対策のために授業を受ける生徒の人数の調整やある程度の会場の広さを確保しなければならないこと、感染症流行状況により外部講師が来校できなくなること等への対応も、新たな課題としてあげられる。

今後は、各学校でがん教育を行った成果と課題を整理し、これらの課題へ対応するための工夫や効果的な方法をまとめ、各学校が取り入れることができるよう周知していく。また、外部講師を活用していない学校においてもがんに関する正しい知識を指導できるよう、高知県がん教育プログラム及び外部講師派遣事業の活用について再度周知し、各学校の実践内容を整理してがん教育に取り組みやすい情報を発信していく。

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

全13名

がんの専門医、医師（佐賀県医師会）、佐賀県PTA連合会事務局長、NPO法人事務局長（がん患者サポート団体）、大学教授、がん患者会代表、健康増進課がん対策推進担当、推進校高等学校校長、推進校中学校長、推進校小学校長、推進校管轄教育委員会指導主事、保健体育課長

2. 開催時期、検討内容

【第1回】令和2年8月25日（火）

協議内容

- 令和2年度 がん教育に関する計画について
- 各推進校の「がん教育総合支援事業に関する推進計画」について

【第2回】令和3年1月26日（火）

協議内容

- 令和2年度がん教育総合支援事業報告について
- がん教育の推進校の実践報告
- 事業の取組評価
 - ・発達段階や学校の実情に応じた内容の検討について
 - ・継続的な取組について
 - ・がん教育の外部講師について（人員確保、予算化、質の向上）
 - ・がん教育の教材について（動画・指導資料のパッケージの作成）

② 教育委員会としての取組

県教育委員会では、がんに対する正しい理解とがん患者に対する正しい認識及び命の大切さについて考える態度の深化を図ることを目的として、「がん教育に関する計画」を策定し、がん教育を推進している。

令和2年度においては、モデル的な取組を行う推進校として、白石町立有明南小学校、白石町立有明中学校、佐賀県立伊万里高等学校を指定し、教材、学習指導案等の作成及び授業の実践、公開を行うことで、県内学校におけるがん教育の推進を図った。

また、がん教育指導者研修会として、推進校の授業を教職員や外部講師が参観することで、教職員や外部講師の資質の向上を図った。

さらに、県内の公立学校15校にのべ26名の外部講師を派遣し、生徒を対象とした講演会等を実施する等してがん教育の推進を行った。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

- 推進校において開催した講演会や授業では、がん教育に関する協議会委員である、佐賀国際重粒子線がん治療財団理事長、佐賀県健康づくり財団ピアサポーターや、がん診療連携拠点病院の佐賀大学医学部附属病院の医師、看護師、また、がん対策NPOクラブサポートから講話をしていただいた。
- 県内の公立学校15校への外部講師派遣については、がん診療連携拠点病院やがん対策NPOクラブサポートと連携し、がんの専門医やがん経験者による講話を行うなど、授業において活用することができた。また、がん教育に関する協議会委員の協力を得て、がんの専門医や地域のがん体験者等の外部講師を推進校にスムーズに派遣することができた。
- がん対策NPOクラブサポート主催のがん教育支援員養成講座（がん体験者及びその家族、がん教育に関心のある方対象）において、県教育委員会より佐賀県におけるがん教育の取組について説明を行った。
- がん教育指導者研修会において、健康増進課がん撲滅特別対策室より県のがん対策について説明していただいた。

(2) モデル校における取組

◎印は外部講師を活用した授業、※太字は公開授業

①小学校の取組

白石町立有明南小学校

白石町立有明南小学校においては、「カリキュラムマネジメントを通じて日常の教育活動と結びつけるがん教育の実践」をテーマに、児童が自らの健康や安全に主体的にかかわり、望ましい生活習慣を身につけることを目指し、授業実践を行った。

【体育科（保健）】

・「よりよく成長するための生活」 対象学年：4年・・・1時間

◎「**がんについて学ぼう**」 対象学年：**6年・・・1時間**

講師：九州国際重粒子線がん治療財団理事長

・「生活習慣病について学ぼう」 対象学年：6年・・・1時間

◎「防煙教室」 対象学年：6年・・・1時間

講師：学校医

◎「薬物乱用防止教室」 対象学年：6年・・・1時間

講師：学校薬剤師

【道徳】

・「**生命尊重**」 対象学年：**全学年**

◎「**がん教育講演会**」 対象：4年～6年 講師：佐賀県健康づくり財団ピアサポーター

【特別活動】

・「食育授業」 対象学年：1年・・・1時間



②中学校の取組

白石町立有明中学校

白石町立有明中学校においては、「健康といのちの大切さを育むがん教育の実践」をテーマに、がんについて学ぶことを通して、健康に対する関心を持ち、適切な行動や態度をとることができる生徒の育成を目指し、授業実践を行った。

【保健体育科】

- ・「心身の発達と心の健康」 対象学年：1年・・・1時間
- ・「防煙教室」 対象学年：1年・・・1時間
- ◎「健康な生活と病気の予防」 対象学年：3年・・・1時間
講師：長崎大学准教授
- ◎「飲酒・喫煙・薬物乱用と健康」 対象学年：3年・・・1時間
講師：佐賀県健康福祉部薬務課

【道徳】

- ・「生命の尊さ」 対象：2年生・・・1時間
- ◎「いのちの尊さ」 対象：全学年・・・1時間
講師：佐賀大学医学部小児科医師
佐賀県健康づくり財団ピアサポーター
がん対策NPO法人クレブスサポート

【特別活動】

- ・「ハートフルな朝食メニューを考えよう」 対象：2年生・・・2時間
- ◎「人権を考える講演会」 対象：全学年
講師：アトランタ・パラリンピック金メダリスト



③高等学校の取組

佐賀県立伊万里高等学校

佐賀県立伊万里高等学校においては、「がんに対する正しい知識を持ち、がん患者とその家族の思いを理解し尊重する姿勢を育てるとともに、自分の命と人の命を大切にする態度を養い、一人ひとりが将来を生き抜いていく力の育成」をテーマに、普通科の高等学校で行うがん教育の一つのモデルとなることを目指し、授業実践を行った。

【保健体育科】

- ・「生活習慣病とその予防」 対象学年：1年・・・1時間
- ・「食事と健康」 対象学年：1年・・・1時間
- ・「喫煙と健康」 対象学年：1年・・・1時間
- ・「飲酒と健康」 対象学年：1年・・・1時間

・「薬物乱用と健康」

対象学年：1年・・・1時間

【特別活動】

◎「がん教育講演会」

対象：1年生・・・1時間

講師：佐賀大学医学部血液・腫瘍内科医師

◎「がん教育公開授業」

対象：1年生・・・1時間

講師：佐賀県健康づくり財団ピアサポーター 他がん経験者4名
佐賀大学医学部附属病院がん専門看護師



2. 事業の達成度について

推進校では、各学校、学年の実態に合ったがん教育を実施し、児童生徒へがんやがん患者とその家族等に対する正しい理解へ向けて取り組んだ。授業づくりや教材等の作成については、事前にアンケートを取り、児童生徒のがんに対する疑問や考えを基に、授業を組み立て、文部科学省の教材を効果的に取り入れた。児童生徒向けのアンケートの「がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ」の項目では、事前は、「そう思う」が80.1%だったが、事後は91.8%に増加していた。「がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う」の項目では、事前は、「そう思う」が58.8%だったが、事後は77.4%に増加していた。また、「がんになっても生活の質を高めることができる」の項目では、事前は、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が54.5%だったが、事後は66.7%に増加していた。児童生徒が、がんに対する理解を深めたり、がん患者やその家族の意思決定や生き方について多角的に思考したりすることができた。

なお、体育科・保健体育科や特別活動、道徳、外部講師の活用等をがん教育という視点で集約させ、カリキュラムマネジメントを通して教科横断的ながん教育を行うことで、学びの深化を図ることができた。

県西部地区の教職員を対象にしたがん教育指導者研修会では、がんの有識者として長崎大学准教授、がん経験者としてNPO法人がんサポートかごしま理事長を講師として招へいした。教職員への事後アンケートでは、「がん教育について理解が深まったか」の項目において、全体の約98%が「かなり深められた・深められた」と回答している。

外部講師派遣については、協議会委員、がん診療連携拠点病院、NPO法人等の協力を得て、県内の公立学校15校にのべ26名の外部講師を派遣することができた。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

推進校や外部講師派遣を利用した学校へは十分な指導も行え、普及が図れたが、それ以外の学校へのがん教育の普及が十分ではない。令和3年度は中学校、令和4年度は高等学校でがん教育が全面実施となるので、がん教育をスピード感をもって普及していくことが課題である。

がん教育は、がんについての正しい知識を身につけるだけでなく、児童生徒が自分の事としてとらえ、行動変容していくことが大切だと考える。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、他者の考え等を聞くなどするグループディスカッション等の取組が十分にできない状況であった。今後は、工夫をしながらグループディスカッション等を多く取り入れ、自分の行動や生き方に落としこむような取組となるようにしていくことが必要である。

外部講師については、県内の公立学校15校（特別支援学校も含む）に26名を派遣した。外部講師が児童生徒の実態把握がうまくできずに、児童生徒にとっては難しい内容になってしまったと感じたケースもあった。県の担当者がコーディネーター的な役割を果たし、発達段階や校種、各学校のニーズに応じた講師を選定し、派遣することが必要である。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、県内4か所にある拠点病院のうち、1か所とは協力ができなかった。地域に根付いたがん教育を行うためにも、県内4か所すべての拠点病院と連携し、がん専門医等の外部講師を増やすことが課題である。がん経験者の外部講師についても、人数が限られており、場所によっては遠方となり、講師の負担にもなっている。NPO法人等とも連携し、各地域にがん経験者外部講師を増やすことが必要である。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

（1）教職員の研修

教職員のがん教育に関する理解、がんについての基本的知識や情報収集に関して、保健部局や医療関係者、がん経験者の活用及び連携を行う。

（2）外部講師等の人材確保

県内の各学校での外部講師の活用を推進していくためには、外部講師の確保とともに外部講師のリスト化等の外部講師派遣体制の整備を進めていく必要がある。なお、講師の負担や旅費等の予算面を考えると、地域ごとのリストにしていくとより良いと考える。

（3）がん教育授業用教材パッケージの作成

推進校や外部講師派遣を利用する学校以外へのがん教育の推進のため、外部講師の動画やパワーポイント、授業のマニュアル等の資料をパッケージにしたものを作成し、県内の希望する学校に配布する。学校ががん教育に取り組みやすい環境を作り、スピード感をもってがん教育の普及を図る。

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

全員で13人

内訳

県医師会1人（内科・外科・小児科専門）、大学教授1人、がん患者支援団体2人、PTA1人
校長3人、養護教諭2人、市教委1人、県衛生主管部局1人、県教委1人

2. 開催時期、検討内容

○第1回（7月上旬に予定していたが、コロナ禍のため書面開催）

- ・がん教育の課題やねらい等の共通理解
- ・具体的取組計画の指導・助言（がん教育指導者研修会の実施、外部講師によるがんに関する講演会及び研修会の実施、先進的な取組事例の周知、がん教育指導者リストの作成等）

○第2回（1月下旬に予定していたが、コロナ禍のため書面開催）

- ・令和2年度事業報告
- ・取組成果の検証及び次年度事業計画の検討等

② 教育委員会としての取組

- ・がん教育推進の中心を担う管理職や保健主事及び養護教諭等の学校職員、外部講師となりうる医師・看護師・保健師やがん患者支援団体を対象にがん教育指導者研修会を実施した。
- ・希望する学校へ外部講師を派遣し、地域のがん教育推進校として講演会等を実施した。
- ・各学校での講演会の状況を県のホームページに掲載し、各学校の取組の参考とした。
- ・各学校における実践の参考となるよう、研修会において先進的な取組の事例発表を実施した。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

- ・保健部局と連携し、外部講師リストの作成及び拡充を図った。
- ・学校に対する外部講師の派遣については、県教育委員会で実践校の希望をとりまとめ、講師の調整は関係機関に依頼し、派遣している。
- ・保健部局については、「がん診療連携拠点病院」からの外部講師（がん専門医、看護師等）の依頼について担当している。
- ・県医師会とは、講師の派遣を依頼できる連携体制が構築できている。
- ・がん患者支援団体とは情報交換が進み、講師の依頼ができる体制が整いつつある。
- ・保健所からは研修会の参加者が増えてきているが、講師の依頼までには至っていない。コロナ禍のため、令和2年度の対応は困難とのことであった。

(2) モデル校における取組

- 佐世保市立吉井中学校
 - ・外部講師による講演会の実施
 - ・授業時数 3 時間
 - ・教科：保健体育
 - ・テーマ「がんについて正しく理解しよう」
- 長崎市立小ヶ倉中学校
 - ・外部講師による講演会の実施
 - ・授業時数 3 時間
 - ・教科：保健体育
 - ・テーマ「～ちがいについて考える～」
- 平戸市立津吉小学校
 - ・外部講師による講演会の実施
 - ・授業時数 3 時間
 - ・教科：特別活動
 - ・テーマ「自他の健康と命の大切さに気づく」

上記 3 校には、同じ小児科医を講師として派遣し、中学校においては、がんの予防や早期発見、治療法等、科学的根拠に基づいた内容に触れ、小学校においては、小児がんを通じて、健康と命の大切さに触れる内容であった。

- 長崎市立南小中学校（併設校）
 - ・外部講師による講演会の実施
 - ・授業時数 2 時間
 - ・教科：特別活動
 - ・テーマ「がんの予防について」
- 小値賀町立小値賀中学校
 - ・外部講師による講演会の実施
 - ・授業時数 3 時間
 - ・教科：保健体育
 - ・テーマ「がんについていっしょに考えよう」

上記 2 校には、がん専門医である県管轄の保健所長を講師として派遣し、がんへの正しい理解や、望ましい生活習慣について学びを深めた。

全 5 校のモデル校とも、家族にがん患者がいる児童生徒や家族をがんで亡くした生徒、がん既往のある児童生徒などがある場合を想定し、児童生徒に不安感や不快感等を抱かせることがないように配慮するとともに、保護者に対しては事前に講演会の開催について周知した。また、外部講師との打合せを綿密に行うとともに、生徒には事前と事後に、職員には事後にアンケートを実施した。

(3) その他

- ・特記事項なし。



2. 事業の達成度について

- ・協議会については、書面開催となったことで、協議が十分に行えず、学校の取組に対する十分な支援を行うことが困難であった。
- ・がん教育指導者研修会については、2回実施したが、参加者の満足度は99.5%、99.3%であり、大きな成果があった。また、講演の内容を保健部局が録画し、がん教育の推進に役立ててもらうために、研修に参加できなかった保健関係機関等に配付した。
- ・外部講師を派遣しての学校における講演会については、10校への派遣を計画していたが、コロナ禍の影響で5校への派遣にとどまった。児童生徒に対するアンケートでは、「がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ」の問いに「そう思う」と答えた生徒が、実施前80.8%から実施後87.7%に増加した。また、「がんの学習は、健康な生活を送るために役立つ」の問いに「そう思う」と答えた生徒が、実施前78.4%から実施後88.4%に増加した。感想の中には、「がんのことを深く知ることができてよかった」、「大人になったらがん検診を受けようと思う」、「がんになった人に対して、どう接するべきか考え直すことができた」などがあり、児童生徒の意識に変容が見られ、大きな成果が得られた。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

- ・外部講師リストについては、令和2年度ではがん診療拠点病院及びがん患者団体等のみのリストとなっているため、各学校や各市町教育委員会がより積極的に活用できるよう、令和3年度は県福祉保健部とさらに連携し、保健所のリスト作成に取り組む予定である。
- ・今後は、派遣を希望する学校等の数に対し、派遣する講師が不足することが予想される。各地域に一定の外部講師を派遣していくためには、各市町教育委員会や地域の学校保健会、医師会等と連携した取組を推進していく必要がある。
- ・外部講師派遣について、令和2年度からは、児童生徒を対象とし、県内で10校を基本に、公立の小中学校については、概ね3年間で各郡市1校以上に、県立の中学校・高等学校・特別支援学校については、大きく2つのグループに分け、各グループに年1校派遣できるよう計画している。（新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年度の実績は5校であった。）
- ・協議会の書面アンケートに、「私立学校とも取組の足並みをそろえてもらいたい」、「協議会委員に加えることは可能か」といった意見が寄せられた。関係課との意見交換を行い、検討していく必要がある。
- ・令和2年度事業は国費のみであった。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- ・授業の中でがんについて取り扱うことになっていることから、まずは保健体育科教員が、がんについての知見を広げる必要がある。がん教育指導者研修会の参加者は、養護教諭や保健主事の参加がほとんどであったので、保健体育科教員の参加を増やすための取組が必要である。令和3年度は、高等学校保健体育科教員を対象とした研修会を計画している。
- ・がん教育推進の中心を担う保健主事や養護教諭に対して研修会を開催したが、参加校から、少しずつ取組が展開され、地域で共有されるよう働きかけたい。
- ・本来ならば、モデル校での取組をその地域で公開・共有することを原則としているが、令和2年度については新型コロナウイルス感染症の影響により困難であった。各学校における実践の参考となるよう、研修会やホームページ等において先進的な取組の紹介を継続していく。

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

<記載例> 全員で21人(構成員の内訳を記載)

- ・大分大学医学部小児科学講座 教授 末延 聡一氏
- ・大分こども病院 院長 藤本 保氏
- ・大分県薬剤師会 副会長 原尻 みどり氏
- ・リレー・フォー・ライフ・ジャパン大分 実行委員 山本克枝氏
- ・大分県PTA連合会副会長 赤嶺 慎太郎氏
- ・大分県中学校校長会 会長 淵野 暢浩氏
- ・大分県立学校長協会 代表 三代 順一氏
- ・大分県中学校保健体育研究会 代表 長野 由香里氏
- ・大分県高等学校保健体育研究会 代表 福浦 孝二氏
- ・大分県豊後大野市立清川小学校(実践校) 校長 麻生 智恵子氏
- ・大分県杵築市立山香中学校(実践校) 教諭 宮本 浩一氏
- ・大分県立情報科学高等学校(実践校) 教諭 宮脇 俊也氏
- ・大分県学校保健会養護教諭部会部 会長 城 美穂氏
- ・大分県高等学校教育研究会養護教諭部会 副部会長 衛藤 美恵氏
- ・大分県教育庁義務教育課 指導主事 淵野 俊二氏
- ・大分県教育庁高校教育課 指導主事 矢田 幸恵氏
- ・大分県生活環境部私学振興・青少年課 代表 福田 鑑氏
- ・大分市教育委員会体育保健課 課長 清水 篤氏
- ・大分県市町村保健活動研究協議会 教育担当理事 内藤 文子氏
- ・大分県福祉保健部参事監兼健康づくり支援課 課長 藤内 修二氏
- ・大分県教育庁体育保健課 課長 加藤 寛章氏

2. 開催時期、検討内容

【第1回協議会】

- ・日 程 8月26日
- ・出席者 17名
- ・内 容 がん教育の推進に向けた実施計画の検討

【第2回協議会】

- ・日 程 2月17日
- ・出席者 13名
- ・内 容 実践校における報告、大分県がん教育実践事例集について協議、大分県がん教育外部講師リストの活用について協議

② 教育委員会としての取組

がん教育研修会（教職員対象研修会）

- ・日 程 令和2年11月7日（木）
- ・内 容
実践校における実践発表
豊後大野市立清川小学校
杵築市立山香中学校
大分県立情報科学高等学校
講演「学校におけるがん教育の進め方」
- ・講 師 福岡県立大学 看護学部ヘルスプロモーション看護学 教授 松浦 賢長氏
- ・参加者 県内小・中・高等学校の教職員、教育委員会指導主事等 81名

がん教育研修会（外部講師対象研修会）

- ・日 程 令和3年2月14日（日）
- ・内 容：説明「学校におけるがん教育」体育保健課
報告「学校におけるがん教育～外部講師としての実践報告～」
講師 サバイバー 山本 克枝氏
医師 林 良彦 氏
- ・参加者 医師、看護師等医療従事者、社会福祉士、がん経験者、学校関係者等 32名

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

- ・大分県医師会、大分県薬剤師会、大分県看護協会、福祉保健部局等と連携を図り、外部講師リストへの登録の呼びかけや1年に1度リストの更新を行っている。

(2) モデル校における取組内容

実践校3校

①大分県豊後大野市立清川小学校

- ・児童対象講演会
 - 講師：畜産農家 武藤さゆり氏
1年生「いのちをいただく、いのちをはぐくむ」
 - 講師：おおいた動物愛護センター 別木達彦氏
2年生「わたしをすてないで」
3～4年生「さいごのときまで」
 - 講師：フリーランス緩和ケア医師 林良彦氏
5～6年生「がんという病気から「命」のことを知ろう」
- ・授業実践
 - 10月23日（金）
第2学年 道徳科「生命を大切に」：生命の尊さ
※事前に生活科「生き物をかってみよう」の授業を実施。
また、別木達彦氏の講演後に本時の授業を実施。
 - 10月21日（水）



第6学年 道徳科「命の大切さ」：生命の尊さ

※事前に保健「生活のしかたと病気」の授業を実施。

また、林 良彦氏の講演後に本時の授業を実施。



②大分県杵築市立山香中学校

・がん克服者講演会

■講師：山本克枝氏

10月20日（金）

対象：3年生

テーマ：「大丈夫だよ。そばにいるよ。」

（1～2年生は講演会の様子を録画したものを道徳科授業の中で視聴）

・外部講師をゲストティーチャーとした保健体育科授業

■講師：山香病院 副院長 石尾 哲也氏

11月20日（金）

対象：中学3年生

テーマ：「がんを学び確かな知識と行動を身につける」



③大分県立情報科学高等学校

・がん教育授業

■9月17日（木）

保健体育科、家庭総合、国語科、数学、外国語科（英語）、工業（電気基礎）、商業科（総合実践）、地歴公民科（世界史A）、化学と人間生活（理科）の9教科でがん教育の内容を取り入れた授業を実施。動画を公開予定。

2. 事業の達成度について

がん教育実践校の取組

■教職員研修

- ・小学校では組織的で充実した教育ができていると感じた。人と人とのつながりが自らの考えに変化をもたらす好事例がたくさんあり、参考にさせていただきます。中学校では生徒たちの感想から心の変容が伝わりました。今後学校教育の中でとても大切な教育になると感じました。高校はいかに日常生活に根ざしたものになるかを考えさせられました。教科横断的に取り組む必要を感じました。
- ・講演は大変わかりやすい説明でした。今後、小・中一貫教育を行う中で、学習内容をマネジメントしながらどうがん教育に取り組んでいくか考えていきたいです。

■生徒対象講演会

- ・私は、がんについてあまりしりませんでした。今回の話を聞いてたくさんわかりました。がんになって苦しいとは思ったけど、自分の好きなことを見つければ、どれだけ苦しくても、短い時間でも「幸せ」と思えるんだなと思いました。もし私が50年後や70年後、がんになっても、少しでも「幸せ」と感じたいと思いました。ありがとうございました。

- 今日の講演を聴いて私は考え方が変わりました。今まではがんになった人は大変そうだ辛そうだ人ごとのように思っていました。しかし、今日の講演を聴いて私もなるかもしれない、がんはいやなことだけじゃないと学ぶことができました。がんになったことで気づかなかったことや出会う事ができた人も居るので、がんサバイバーの方を差別したりせずに支えられる人になりたいです。私の祖父もがんで亡くなりましたが、亡くなる直前に「笑顔でした。それはきっと私たち孫が笑顔で見送ってくれたからだよ、」と母に言われました。こんな私でも誰かを笑顔にできるので、これから色々な人と関わり笑顔になってもらえるようにしていきたいと強く感じました。
- 今日の講演を聴いて、僕が小学校4年生の時、当時38歳だった父の姉が、胃がんで亡くなったこと思い出しました。日々の抗がん剤やがんの影響により、弱っていく父の姉を見て講演会の題目の「大丈夫だよ。そばにいるよ。」の声かけができなかったことがとても、今となっては悔しいです。最後亡くなる時は丁度僕が風邪を引いていて、僕だけ最後を見とどけてあげられなかったので、亡くなったと言われたときの感情は今でも覚えているくらい、衝撃的で悲しかったです。今後、身近な家族や自分ががんになったときは絶対に「大丈夫だよ。そばにいるよ。」の声かけを何回もしたいと、強く思いました。

■外部講師リスト

- 県内全域をカバーできる外部講師のリストができた。今後も協力していただける方に対するがん教育の周知を継続していく。

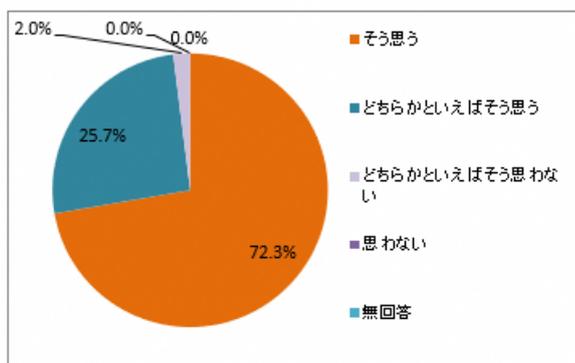
■講演会におけるがん教育

生徒に対するアンケート結果（抜粋）

1) がんについて当てはまるもの

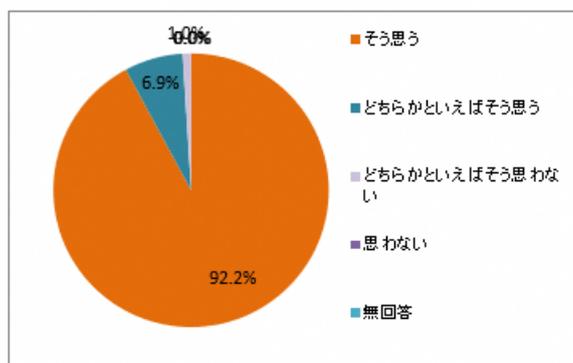
a がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ（事業実施前）
(単位：人)

そう思う	73
どちらかといえばそう思う	26
どちらかといえばそう思わない	2
思わない	0
無回答	0



a がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ（事業実施後）
(単位：人)

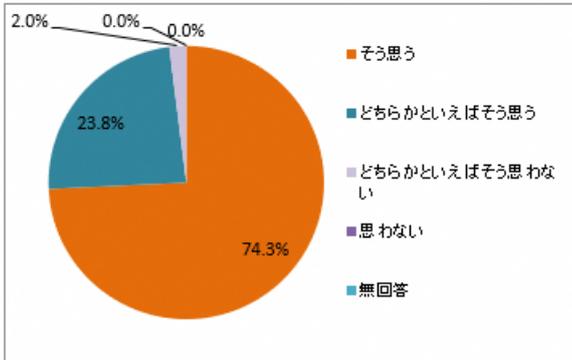
そう思う	94
どちらかといえばそう思う	7
どちらかといえばそう思わない	1
思わない	0
無回答	0



b がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ（事業実施前）

(単位：人)

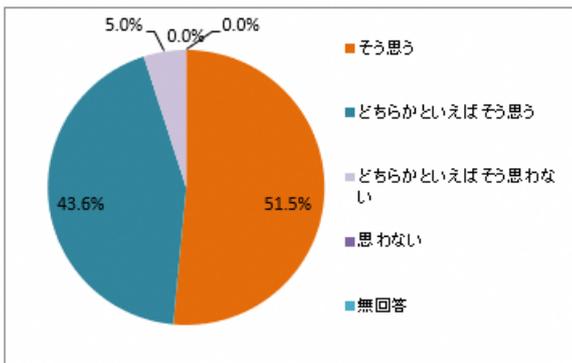
そう思う	75
どちらかといえばそう思う	24
どちらかといえばそう思わない	2
思わない	0
無回答	0



c 日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う（事業実施前）

(単位：人)

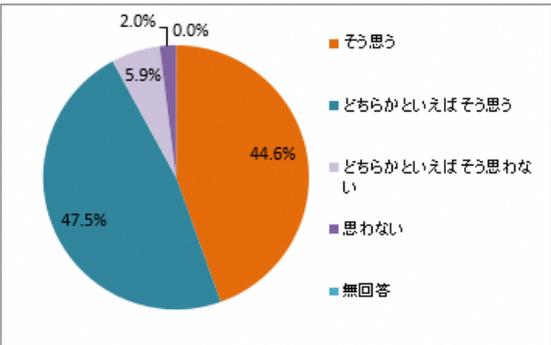
そう思う	52
どちらかといえばそう思う	44
どちらかといえばそう思わない	5
思わない	0
無回答	0



d がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う（事業実施前）

(単位：人)

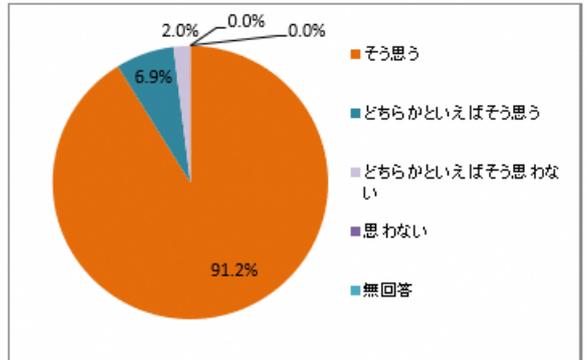
そう思う	45
どちらかといえばそう思う	48
どちらかといえばそう思わない	6
思わない	2
無回答	0



b がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ（事業実施後）

(単位：人)

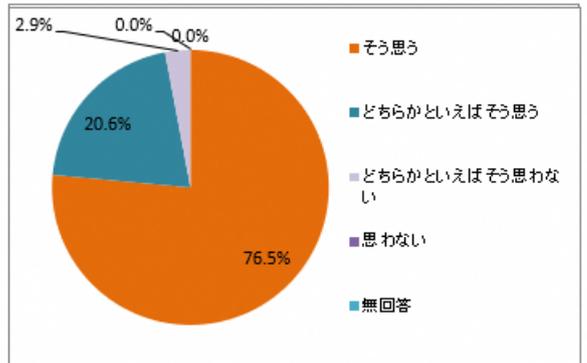
そう思う	93
どちらかといえばそう思う	7
どちらかといえばそう思わない	2
思わない	0
無回答	0



c 日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う（事業実施後）

(単位：人)

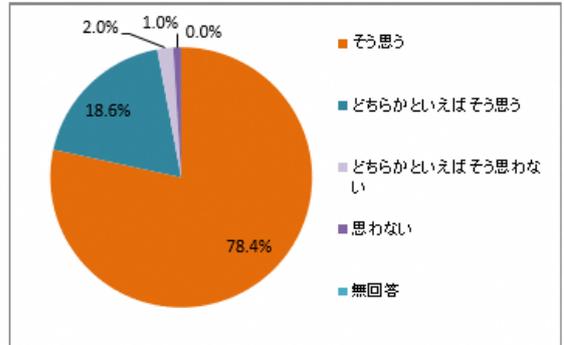
そう思う	78
どちらかといえばそう思う	21
どちらかといえばそう思わない	3
思わない	0
無回答	0



d がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う（事業実施後）

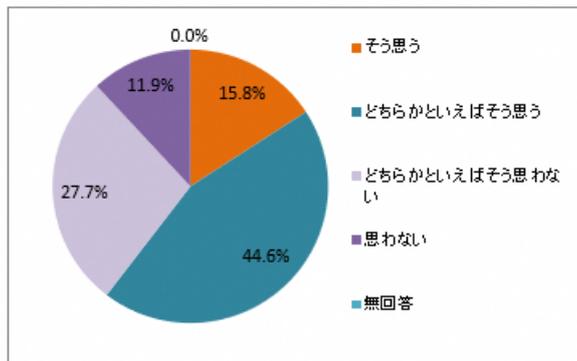
(単位：人)

そう思う	80
どちらかといえばそう思う	19
どちらかといえばそう思わない	2
思わない	1
無回答	0



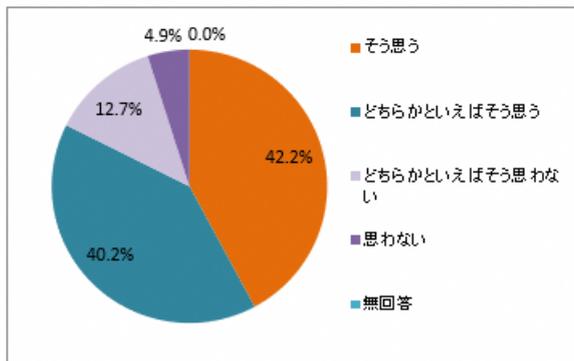
f がんになっても生活の質を高めることができる（事業実施前）
（単位：人）

そう思う	16
どちらかといえばそう思う	45
どちらかといえばそう思わない	28
思わない	12
無回答	0



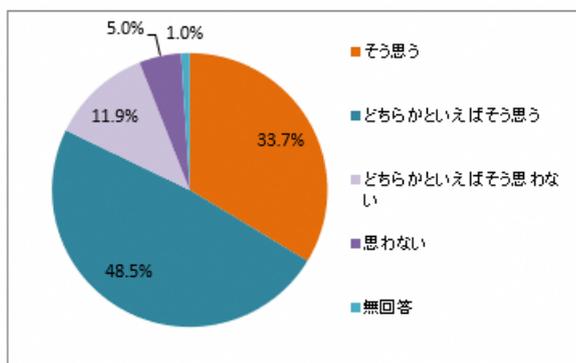
f がんになっても生活の質を高めることができる（事業実施後）
（単位：人）

そう思う	43
どちらかといえばそう思う	41
どちらかといえばそう思わない	13
思わない	5
無回答	0



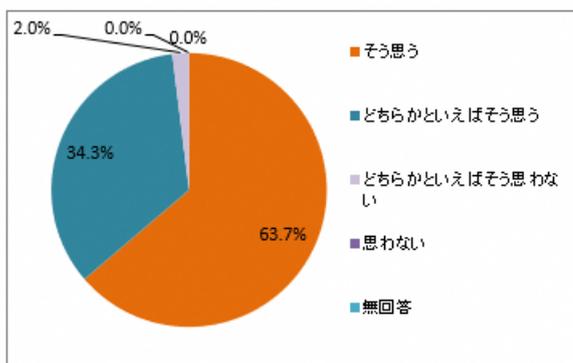
h がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う（事業実施前）
（単位：人）

そう思う	34
どちらかといえばそう思う	49
どちらかといえばそう思わない	12
思わない	5
無回答	1



h がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う（事業実施後）
（単位：人）

そう思う	65
どちらかといえばそう思う	35
どちらかといえばそう思わない	2
思わない	0
無回答	0



・生徒のアンケート結果から、「生活習慣への注意」「がん検診の受診」「がん患者の生活の質」「がんについて家族で話し合うこと」等について肯定的な回答の増加が見られ、基本的な生活習慣の認識を改め、がんに対する正しい知識や命の大切さに対する理解の深まり、身近な人とのがんについて話し合いたいという変容をうかがうことができた。

3. 今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

- ・実践校の実践事例集を作成し、各種研修会において周知しているが、外部講師の活用については、謝金や交通費の捻出が必要という大きな課題が残っている。県や市町村教育委員会における講師派遣の予算措置も難しい状況がある。
- ・外部講師リストはあるが、ほとんどの方は外部講師としての経験がない状態であるため、今後も外部講師を対象とした研修を継続していく必要がある。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- ・今年度は、新型コロナウイルス感染症への対策や授業時数の確保等の要因から、外部講師を招聘した保健教育を積極的に行う学校は減少した。また、文部科学省のがん教育のアンケートも行っていないため、がん教育の実施や外部講師の活用の状況がわからない状況がある。コロナ後のがん教育実施に向けた取組や、ICTを活用したがん教育の取組についても積極的に周知を図っていかなければならない。

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1 構成員

ア 委員：14人

【内訳】

医師(がん専門医)1人(内科)1人, 保健所長1人, NPO法人(がん経験者)1人, 実践校(学校長, 教諭)2人, 養護教諭代表2人, 県保健福祉部健康増進課係長1人, 関係市教育委員会指導主事1人, 県教育庁義務教育課指導主事1人, 人権同和教育課指導主事1人, 保健体育課長1人, 保健体育課指導主事1人

イ 事務局：5人

【内訳】

健康教育係長1人, 健康教育係指導主事4人

2 開催時期、検討内容

ア 第1回鹿児島県「がん教育総合支援事業」連絡協議会(令和2年8月27日)

医療関係者, 学校関係者, その他行政関係者からなる連絡協議会を設置し, 県内の実情を踏まえ, がん教育の推進を図るため, モデル校の「がん教育に関する計画」の作成に対し指導・助言を行った。

イ モデル校授業研修会への委員の派遣

モデル校のがん教育授業研修会に委員(委員5人)を派遣し, 授業参観や授業研究を通して, その成果と課題について検証した。

ウ 第2回鹿児島県「がん教育総合支援事業」連絡協議会(令和3年1月28日)

実践校における授業実践や今後の進め方について助言した。また, 生徒や職員に実施した事前, 事後アンケートから成果と課題を検証した

② 教育委員会としての取組

1 「がん教育総合支援事業」連絡協議会(以下「連絡協議会」とする。)の開催

医療関係者, 学校関係者, その他行政関係者からなる連絡協議会を設置し, 県内の実情を踏まえ, がん教育の推進を図るため, モデル校の「がん教育に関する計画」の作成に対し指導・助言を行った。

2 がん教育推進モデル校の指定

がん教育を推進するモデル校として, 始良市立蒲生中学校を指定し, がん教育を推進する取組を実施し, その成果や課題について検証した。

3 教職員や学校医, 保護者を対象としたがん教育研修会の開催(県内5地区)

教職員や学校医, 保護者等を対象に, がんに対する正しい知識や理解を図り, がん教育を実施する上での留意事項及び効果的な進め方や配慮事項について, がん専門医やがん経験者を講師として研修会を開催した。

- ・ 大島地区会場(参加者:58人)
- ・ 始良・伊佐地区会場(参加者:99人)
- ・ 南薩地区会場(参加者:58人)
- ・ 大隅地区会場(参加者:176人)
- ・ 北薩地区会場(参加者:97人)



がん教育研修会

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

保健所長や県保健福祉部局の担当係長，がん経験者（NPO法人）を連絡協議会の委員として委嘱し，モデル校に対しアドバイスをいただくとともに，がん教育推進に当たっての配慮事項や外部講師のリスト化等の内容について検討を行った。

(2) モデル校における取組

○ 始良市立蒲生中学校

共に生きるために自他の健康と命の大切さを学ぶがん教育

- 1 がん教育に関する教職員の資質向上を目的とした蒲生ブロック合同研修会の実施（令和2年8月21日）
モデル校の蒲生中学校及び近隣小学校の教職員を対象に，がん教育に関する合同研修会を行った。がんに対する正しい知識や理解を図り，がん教育を実施する上での留意事項，小中連携の在り方等について研修を深めた。
- 2 がん教育と道徳授業との関連についての職員研修（令和2年11月10日）
命の大切さについて主体的に考える生徒の育成をめざして，県教育委員会義務教育課道徳担当指導主事を講師として，がん教育と道徳授業との関連を図るための研修を行った。道徳授業と関連づけたがん教育授業の方向性が明らかになった。

3 授業実践(外部講師を活用したモデル授業)

実施教科：道徳科

授業者：担任，外部講師（NPO法人講師）

内 容

がん患者として，自身の経験や最後までがんに向かい合い，命を燃やした方の事例をもとに，がんについて正しく理解するための知識理解と命の大切さや共生についての授業を行った。



外部講師を活用した道徳科の授業

2. 事業の達成度について

【連絡協議会】

- ・ 連絡協議会の委員を，モデル校の授業研修会に派遣した。参観後の授業研究では，専門医や経験者，教育関係者等が積極的な意見交換を行い，がん教育の実施に当たっては，学校・医療関係者・経験者等が連携し，それぞれが得意分野を共有しながら授業を行うことで，より充実したものになることを確認することができた。
- ・ 連絡協議会において，県内の学校が外部講師を活用しやすいリストについて協議し，がん患者や医療関係者，関係部局の委員から，外部講師調査の実施の必要性や調査の項目内容，依頼団体等について多くの意見が出された。リスト作成に向けての方向性やスケジュール等が明らかになった。次年度，早い時期に学校へ提供できるよう計画を遂行していく。

【県教育委員会】

- ・ 県内5地区で行ったがんに関する研修会において，がん専門医の最新の知見やがん経験者の心情等について学ぶことを通して，参加者のがんに対する正しい理解を深めることができた。また，中学校，高等学

校の新学習指導要領にがん教育が明記された情報が認知され、学校や保護者の関心の高さを感じることができた。本年度初めて実施した研修会であったが、成果が大きいことから、次年度も継続して実施していく。

【研修会参加者（養護教諭）の感想】

がん教育を進めなければならないことは理解していたが、目的や内容、方法に関する情報が少なく、どのように進めればよいか迷っていたが、具体的で、分かりやすい講義をいただいた。学校に持ち帰り、管理職に報告し、研修機会を設定したい。外部講師の活用も図りたい。

【研修会参加者（保護者）の感想】

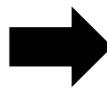
がん教育「を」教えるのではなく、がん教育「で」教えるという言葉が印象に残った。がん教育を学ぶ中で、子供たちが自分の命の大切さについて気づいてくれたらいいなあと思いました。がん経験者の言葉は、重みがあって、子供たちの心に響くと思いました。

【モデル校】

- ・ 生徒のアンケートから

Q1-a がんの学習は健康な生活を送るために重要だ

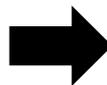
(事業実施前)	(単位：人)
そう思う	22
どちらかといえばそう思う	4
どちらかといえばそう思わない	0
思わない	0
無回答	0



(事業実施後)	(単位：人)
そう思う	23
どちらかといえばそう思う	3
どちらかといえばそう思わない	0
思わない	0
無回答	0

Q1-b がんの学習は健康な生活を送るために役立つ

(事業実施前)	(単位：人)
そう思う	20
どちらかといえばそう思う	6
どちらかといえばそう思わない	0
思わない	0
無回答	0



(事業実施後)	(単位：人)
そう思う	22
どちらかといえばそう思う	4
どちらかといえばそう思わない	0
思わない	0
無回答	0

【外部講師を活用したがん教育授業後の生徒の感想】（一部抜粋）

がんや命の大切さについて教えてくださってありがとうございました。私はがんに対して悪い印象ばかりでした。「痛い」「治療率が低い」「何もできない」などのことを思っていました。話を聞いて、「やろうと思えば何でもできるんだ」「人のためにつくせるんだ」と印象がかわりました。実は、私、自分に自信がないんです。自分に自信がないので、ちょっとしたことを言われるだけでも苦しくて、何度も「このまま生きていいのかな」と不安になってしまうことがありました。けれど、先生の「よく頑張って生きてね」という言葉で泣いてしまった時「やっぱり、がんばって生きよう」と前向きになれました。

3 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

- ・ 県内5地区で行った研修会では、参加者にがん教育推進の必要性や意義が伝わり、有意義な研修会となった。保健体育科の教員の参加が少なかったため、次年度は、保健体育科の教員を対象とした研修会を設定する必要がある。
- ・ 外部講師として活動することを希望する方を対象とした研修会の在り方について研究する必要がある。
- ・ 外部講師のリストを作成後、リスト活用やその方法の周知の仕方等について工夫する必要がある。

4 モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- ・ モデル校において外部講師を活用した授業の有効性について検証できたが、モデル校以外において、外部講師を活用した授業実践が不十分なことから、より多くの学校への外部講師派遣を検討する必要がある。また、オンラインでの授業の在り方等についても研究する必要がある。

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

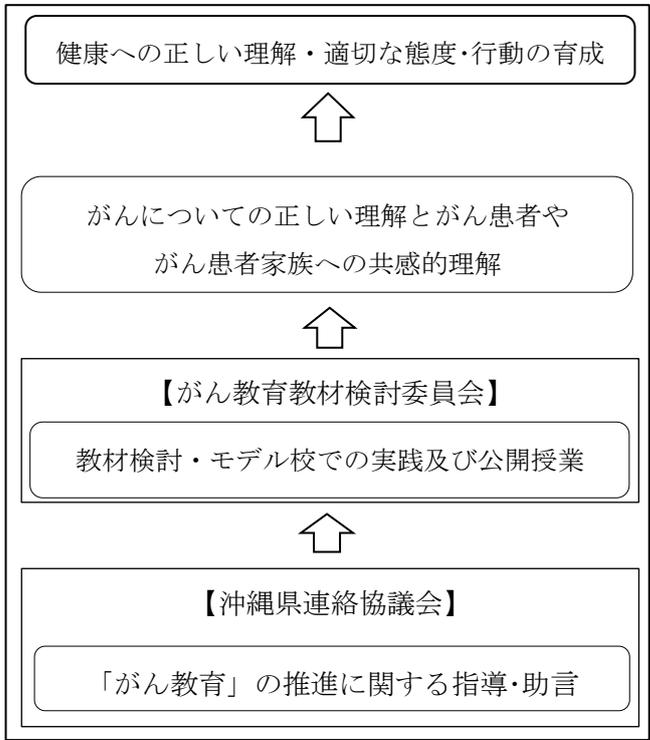
① 協議会について

1. 構成員

全員で16人

(内訳)

- 医師2人(腫瘍内科1人、内科(学校担当)1人)
- 県保健医療部1人
- 県がん患者会1人
- 保健体育教諭2人(中学1人、高等学校1人)
- 養護教諭1人(小学校)
- 校長3人(小学校1人、中学1人、高等学校1人)
- 県総合教育センター2人
- 県教育委員会4人



2. 開催時期、検討内容

【第1回沖縄県連絡協議会】日時：令和2年6月24日水曜日

- ア「沖縄県連絡協議会設置要綱」について
- イ 沖縄県における「がん教育」の現状について
- ウ 県内でのがん教育に関する動向
- エ がん教育の実施状況(H29年度調査)より現状と課題
 - (ア)実施状況 (イ)実施しない理由 (ウ)実施方法 (エ)外部講師活用
 - (イ)外部講師活用の課題 (ウ)外部講師活用で効果的だったと思ったこと
- オ がん対策に関する沖縄県の状況
 - (ア)受診率 (イ)精検査率 (ウ)男女別の罹患率 (エ)全国との受診率の比較
- カ 事業計画について
 - (ア)趣旨 (イ)計画の期間 (ウ)計画の体制
- キ 目標
 - (ア)モデル校教諭及び小学校・中学校・高等学校教諭、総合教育センター研究主事を中心とした教材検討委員会を設置し、がん教育における教材を検討。
 - (イ)モデル校による公開授業
 - (ウ)教職員・関係者等への地区別「がん教育研修会」の実施
 - (エ)沖縄県健康教育研究大会でのモデル校実践発表

【第2回沖縄県連絡協議会】令和3年1月20日水曜日

《令和2年度事業報告》

- ア 連絡協議会について
- イ がん教育研修会について
 - 研修会日時：令和2年7月28日(火)
 - 開催方法：web会議システムZOOMを活用したオンライン研修
- ウ 教材検討委員会について(年3回)
 - ・第1回がん教育教材検討委員会・・・令和2年8月26日(水) 15:00～17:00
 - ・第2回がん教育教材検討委員会・・・令和2年9月11日(金) 15:00～17:00
 - ・第3回がん教育教材検討委員会・・・令和2年10月9日(水) 15:00～17:00
- エ がん教育外部講師養成プログラム策定委員会

オ がん教育外部講師のためのオンライン研修会

カ 他機関との連携について

(ア) 第19回沖縄県健康教育研究大会での実践発表

(イ) 沖縄県がん診療連携協議会、同小児・AYA 部会への参加

(ウ) 文部科学省主催研修会への参加

(エ) がん教育外部講師養成プログラム策定委員会

a) がん教育外部講師養成プログラムの策定

【第1回策定委員会】

策定委員会の果たすべき役割、研修会開催日時、研修方法（オンライン）、対象者を沖縄県在住のがん患者やがん経験者とすることや講義及びワークショップ内容を「がんサポートかごしま」のプログラム内容を基に組み立てること等、方向性を決定することができた。

【第2回策定委員会】

受講者募集方法、講義内容、講師の推薦、ワークショップ講師・進行について決定することができた。推薦された講師が都合がつかず、別の講師へと急遽依頼することとなったが、委員会メンバーの力添えで、新たな講師を推薦していただき、担当講師をすべて依頼することができた。

b) チラシ作成

受講者募集のチラシ作成の提案がなされ、チラシを作成し県内各がん患者団体に送付し、呼びかけを行うことができた。県立図書館や恩納村図書館（がんに関する企画展を実施中）、教職員退職者会等にも広報を行った。

(オ) がん教育外部講師養成オンライン研修会

a) 沖縄県在住のがん患者・がん経験者

がん教育の必要性、がんに関する知識の整理、外部講師の果たす役割等について理解が深められた。沖縄県内で初めて開催できたことは、今後につながる1歩となり、励みとなるものであった。

b) その他の参加者

医療従事者や大学教授（専門：がん看護）、がん患者家族の受講もあった。それぞれの立場で受講していただき今後、連携が期待できるものとなった。

c) 講師について

オンライン研修方式の為、現地への移動等の時間等の制約が少なく、講師依頼から了承まで短期間でスムーズに行うことができた。がん精通した講師陣を招聘でき、さらに経費面でも大きく削減できた。

e) アンケート結果より

(a) 講義内容

「大変良い」「やや良い」とした受講者が93%であった。「実践的な内容だった」「講義がわかりやすかった」「がん教育の現場をイメージできた」等満足度が高かった。がん教育に熟知した講師陣の質の高さやワークショップの充実した内容によるものである。

(b) 研修方法

コロナ禍において、オンラインによる研修方法についても理解が示された。研修日程の進行もスムーズであったとの感想もあった。

キ 事業課題

(ア) 各学校の教育課程への位置付けの明確化

a) 新学習指導要領の中学校（令和3年度実施）、高等学校（令和4年度実施）においては、「がんについても取り扱うもの」と明記された。同解説においても、小学校（本年度実施）では「触れるようにする」、中学校、高等学校では「理解させる」という文言が示されている事を、全面実施に向けて周知を徹底していく予定だったが、コロナ禍のため、十分にできなかった。来年度も、周知を徹底していくことが課題である。

b) がん教育の目標を達成するためには、がんに対する正しい知識を保健体育の保健学習で身に付けさせ、関連教科、特活等を通じて健康と命の大切さ、がん患者への正しい理解について実践していくことが必要である。体育・保健体育の保健学習を中核に他の教科と連携した指導（カリキュラム・マネジメントの視点）について、取り組みを継続して提案していくことが、引き続き課題となる。

(イ) 外部講師の活用について

a) 外部講師養成プログラム策定委員会からの提案により、プログラムを策定し研修会を実施したが、企画・運営面において、教育委員会以外の部署や他機関との連携が必要である。今後継続的（或いは不定期）に実施し、外部講師を養成していくのであれば、沖縄県がん連携診療会議等からの助言等も必要である。

(ウ) 研修会等の充実と普及・推進

a) がん教育に対する教職員の不安感が大きく、がん教育についての理解を深める必要がある。そのためにも指導者研修会を充実させ、保健体育科教諭、養護教諭等への積極的な参加を呼びかけていく必要がある。また、がん教育実施状況調査（コロナ禍のため令和元・2年度調査無）が行われる事を管理職へも周知する必要がある。

b) コロナ禍のためモデル校の取り組み参加者を限定した検証授業として、教材を検討した。そのため、広く公開することができなかった。今後、管理職研修会や教諭向け研修会等の行政説明において、普及・推進していく必要がある。

(2) モデル校の取組

実施時期	
8月26日 9月11日 10月9日	<p>【がん教育教材検討委員会における教材の検討・作成】</p> <p>第1回 場所：県庁13階第3会議室 参加人数：10名 ・学校におけるがん教育について</p> <p>第2回 場所：県庁13階第3会議室 参加人数：10名 ・各モデル校におけるがん教育教材の検討</p> <p>第3回 場所：県庁13階第3会議室 参加人数：13名(Web参加3名) ・検証授業指導(案)発表、協議 ・がん専門医、がん患者会代表、学校管理職による遠隔からの指導助言 (Web会議システム ZOOM 活用)</p>
10月19日 10月23日	<p>【検証授業前(模擬)授業による教材の再検討】</p> <p>(中学校)</p> <p>場 所：北中城村立北中城中学校 授業者：中学校モデル校授業担当者 参観者：中学校教材検討委員、教育事務所指導主事、県保健体育課指導主事、 県総合教育センター研究主事・研修職員、実施校教職員</p> <p>10月23日 検討会：授業後の教材検討会にて、指導案の再検討を行った。(参加人数：8名) (小学校)</p> <p>場 所：糸満市立兼城小学校 授業者：小学校教材検討委員 参観者：小学校モデル校教諭・養護教諭、教育センター研究主事 検討会：授業後の教材検討会にて、指導案の再検討を行った。(参加人数：4名)</p>
10月23日 10月27日	<p>【がん教育モデル校による検証授業における教材の検討】</p> <p>(公開授業から検証授業へ変更(コロナ禍のため参観者を限定し、検証授業を実施))</p> <p>(中学校)</p> <p>場 所：北中城村立北中城中学校 授業者：中学校モデル校保健体育科教諭 現地参観者：中学校教材検討委員、教育事務所指導主事、県保健体育課指導主事、 県総合教育センター研究主事・研修職員、実施校教職員(計16名) Web参観者：小学校・高等学校教材検討委員、がん患者会代表(計6名) (総計22名)</p> <p>検討会：授業後教材検討会を実施し、教材の評価と再検討を行った。</p> <p>(高等学校)</p> <p>場 所：県立南部工業高等学校 授業者：高等学校モデル校保健体育科教諭 現地参観者：高等学校教材検討委員、県保健体育課指導主事、がん患者会代表、 県総合教育センター研究主事・研修職員、実施校教職員(計13名) Web参観者：小学校・中学校教材検討委員、(計5名) (総計18名)</p> <p>検討会：授業後教材検討会を実施し、教材の評価と再検討を行った。</p>

11月4日	<p>(小学校)</p> <p>場 所：那覇市立真地小学校 授業者：小学校モデル校教諭</p> <p>現地参観者：小学校教材検討委員、県保健体育課長・班長・指導主事、がん専門医 がん患者会代表、県総合教育センター研究主事、 実施校教職員（計14名）</p> <p>Web参観者：中学校・高等学校教材検討委員、（計4名）</p> <p style="text-align: right;">（総計18名）</p> <p>検討会：授業後教材検討会を実施し、教材の評価と再検討を行った。</p>
2月5日	<p>【令和2年度 第20回沖縄県健康教育研究大会にて実践発表によるがん教育の普及・啓発】</p> <p>会 場：沖縄県総合教育センターよりオンライン配信(Web開催)</p> <p>発表部会：学校保健部会</p> <p>参加人数：約150名</p> <p>内 容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん教育総合支援事業小学校モデル校、中学校モデル校、高等学校モデル校授業者による 実践発表。 ・本年度のがん教育モデル校における授業実践を発表し、がん教育の推進及び教材の普及・啓発を図った。 ・指導助言により、教職員や学校関係者が学校におけるがん教育について理解を深めた。

【小学校モデル校指導と評価の計画8時間】

時	目標	知	思	態	評価規準・評価方法
1	<p>病気の起こり方</p> <p>【目標】病気は病原体、体の抵抗力、生活行動、環境が関わり合って起こることを理解できるようにする。</p>			○	<p>病気の予防について、教科書で調べたり、話し合ったりする過程で、他者の考えも受け入れながら意欲的に取り組もうとしている。</p> <p style="text-align: right;">（観察・ノート）</p>
2	<p>感染症の予防</p> <p>【目標】病原体が主な原因となって起こる病気の予防には、病原体が体に入るのを防ぐことや病原体に対する体の抵抗力を高める必要があることを理解できるようにする。</p>	○			<p>感染症の予防には、病原体が体に入るのを防ぐことや病原体に対する体の抵抗力を高めること、安静にすることで回復を早めることが必要であることを、言ったり書いたりしている。</p> <p style="text-align: right;">（観察・ノート）</p>

3	生活習慣病の予防① 【目標】生活習慣病など生活行動が主な要因となって起こる病気の予防には、適切な運動、栄養の偏りのない食事をとることなど、望ましい生活習慣を身につける必要があることを理解できるようにする。	○		心臓病や脳卒中などの生活習慣病の予防には、適切な運動を行い、栄養の偏りのない食事をとることなど、望ましい生活習慣を身につける必要があることを言ったり書いたりしている。 (観察・ノート)
4	生活習慣病の予防② 【目標】むし歯や歯周病を予防するには、口腔の衛生を保つことなど、望ましい生活習慣を身につける必要があることを理解できるようにする。	○		むし歯、歯周病などの生活習慣病の予防について、自分自身の生活を振り返って課題を見つけ、その解決に向けて考えたり、伝え合ったりしている。 (観察・ノート)
5	喫煙の害と健康 【目標】喫煙は健康を損なう原因となることを理解できるようにする。	○		喫煙の害と健康について関心を持ち、生活場面を思い起こしながら、学習に意欲を持って取り組もうとしている。 (観察・ノート)
6	飲酒の害と健康 【目標】飲酒は健康を損なう原因となることを理解できるようにする。	○		飲酒は、健康を損なう原因となることを、言ったり書いたりしている。 (観察・ノート)
7	薬物乱用の害と健康 【目標】薬物乱用は健康を損なう原因となることを理解できるようにする。	○		薬物乱用の害について、自分の今後の生活に無関係なものであるための方法を考えたり、伝え合ったりしている。 (観察・ノート)
8	がんの理解と保健活動（本時） 【目標】がんの要因やがんのリスクを低くする生活行動について正しく理解し、今できることを表すことができる。	○		がんの要因やがんのリスクを低くする生活行動について、自分や家族の生活を具体的に考えたり、伝え合ったりしている。 (観察・ワークシート)

【小学校モデル校】

本時の学習（8／8時間）

（1）本時の目標

○がんの要因やがんのリスクを低くする生活行動について正しく理解し、今できることを表すことができる。

（2）本時の展開（T1：担任、T2：養護教諭）（T1のみでも可）

	主な学習内容・活動	PP 番号	○指導上の留意点◆評価
導 入 8 分	<p>1 前時までの学習を想起する。(T1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・喫煙や飲酒、薬物乱用が体に起こす害を思い起こす。 ・日本人の死因の内訳（がんは死亡原因1位）や日本人ががんになる確率（2人に1人ががんになり、3人に1人ががんで亡くなっていること）を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>がんを正しく理解し、自分にできることを考え</p> </div> <p>2 めあてをつかむ。(T1)</p>	<p>1</p> <p>2</p> <p>3</p>	<p>○がんについて正しい知識を持つ必要性を感じさせる。</p>
展 開 32 分	<p>3 がんになる原因は何だと思うか自分の考えを付箋紙に書き、<u>黒板の画用紙に貼る。</u></p> <p style="text-align: center;">(T1)</p> <p>〈予想される反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たばこの吸い過ぎ ・お酒の飲み過ぎ ・紫外線の浴びすぎ ・食事の偏り ・病原体やウイルス ・運動不足 ・魚や肉のこげを食べた ・病原体やウイルス ・睡眠不足 ・遺伝・運動不足 ・魚や肉のこげを食べた ・食品添加物 <p>4 がんについて正しい知識をもつ。(T2)</p> <p>(1) 細胞の変化・がんになる仕組み</p> <p>(2) 早期発見の大切さ</p> <p>(3) がんの現状</p> <p>(4) がんのリスクを高める要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過度の飲酒 ・喫煙 ・偏った食事 ・運動不足 ・長寿・原因不明 	<p>4～8</p> <p>9・10</p> <p>11・12</p> <p>13・14</p>	<p>○同様の考えごとに画用紙に貼り付け、学級全体の考えが把握しやすいようにする。</p> <p>○スライドで視覚的に理解させる。また、付箋紙に書いた自分の考えと照らし合わせながら学習に参加させることで集中力を持続させる。</p> <p>○ビー玉（直径1cm、直径2cm）を用意し、PP9の補助教材として、活用する。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>○がんの要因について、細菌やウイルス、遺伝的要因については触れず、生活習慣や行動に気をつけることでがんになるリス</p>
		15	

	<p>(5) 地域の保健活動 (T1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児検診 ・小学校での健康診断 ・健康相談・定期検診(がん検診) ・情報の提供 <p>5 自分や家族が健康に生活していくために、できることを考える。(T1)</p> <p><予想される反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来飲酒や喫煙をしない ・家族に検診や禁煙をすすめる ・適度な運動をする <p>6 学習をまとめる。(T1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スライドで「今日の学習のポイント」を確認する。 ・ワークシートにまとめを書く。 	<p>16</p>	<p>クが低くなることに焦点を当てる。</p> <p>○がん患者全てが生活習慣の乱れによるものではなく、気をつけて生活していても原因が解明できずがんになる場合もあることをおさえる。</p> <p>○早期発見でがんは9割近く治る。検診や早めの受診・正しい情報を得ることの大切さをおさえる。</p> <p>◆がんの要因やがんのリスクを低くする生活行動について、自分や家族の生活を具体的に考えたり、伝え合ったりしている。(観察・ワークシート)</p>  <p>○スライドで本時の学習を確認し、ワークシートに記入することで学習を確実におさえる。</p>
<p>ま と め 5 分</p>	<p>7 ふりかえりをする。(T1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習で自分の考えが深まったり、広がったりしたことを書いてまとめる。 		

【中学校モデル校：単元の指導と評価の計画】

時 間	ね ら い	学 習 活 動	評価規準			評価方法
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 健康の成 り立ち	<ul style="list-style-type: none"> 健康は主体と環境を良好な状態に保つことであることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康に関する主体と環境にはどのようなものがあるか調べまとめることができる。 		◎	◎	観察 成果物
2 運動と健 康	<ul style="list-style-type: none"> 運動を行う事によって身体的、精神的にどのような効果があるか理解する。 個人生活と関連づけてたりして、自他の課題を発見し、それを説明することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動を行う事によって身体や精神にどのような効果があるか理解する。 自他の生活を振り返りながら運動を取り入れる方法を考えまとめる。 	◎			観察 成果物
3 食生活と 健康	<ul style="list-style-type: none"> 食事には健康な身体をつくるとともに、運動などによって消費されたエネルギーを補給する役割があることを理解する。 個人生活と関連づけてたりして、自他の課題を発見し、それを説明することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 食事による身体への効果や消費されるエネルギーを基に自己の生活を振り返り改善するための具体的方法を考える。 	◎			観察 成果物
4 休養・睡眠 と健康	<ul style="list-style-type: none"> 休養及び睡眠は心身の疲労を回復するため、健康の保持増進するために必要であることを理解する。 個人生活と関連づけてたりして、自他の課題を発見し、それを説明することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 休養及び睡眠が身体にどのような効果があるか理解し自己の生活を振り返り改善するための具体的方法を考える。 	◎			観察 成果物
5 生活習慣 病とその 予防①	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病の疾病概念や若い頃からの不規則な生活が病気の発症リスクを高めることを理解する。 生活習慣病予防するためには適切な生活習慣を身に 	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病にはどのような病気があるか知る。 生活習慣病の原因について知る 生活習慣でリス 	◎		◎	観察 成果物

	<p>付けることが大切であることを理解することができるようにする。</p>	<p>クが高まることや予防できることを知る。</p>				
6 生活習慣病とその予防②	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病の発生要因やその予防について習得した知識を活用して自己の生活を振り返り、自他の課題解決に役立て、伝え合うことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動、食事、睡眠・休養などと生活習慣病との関連について知る。 自他の生活習慣を振り返りながら予防のための方法を考える 		◎	◎	観察 成果物
7 がんの原因と予防	<ul style="list-style-type: none"> がんの発生要因には不適切な生活習慣をはじめ様々なことがあることを理解する。 がんの予防について、健康に関する資料をみたり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組むことができるようにする。 予防について、個人生活と関連づけたりして、自他の課題を発見し、それを説明することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> がんの発生要因やその予防について調べまとめることができる。 がんの予防について健康に関する資料と自己の生活を比較しながら健康課題について把握し、改善するための具体的方法を考える。 		◎	◎	観察 成果物
8 喫煙と健康	<ul style="list-style-type: none"> 喫煙についてたばこに含まれる有害物質が身体にどのような影響を及ぼすか理解する。 未成年者の喫煙が身体に大きな影響を及ぼす事を知り予防策について実の場を想定し考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 喫煙の害について調べまとめることができる。 喫煙のきっかけを知りどのように対処すればよいか話し合いまとめる。 		◎		観察 成果物
9 飲酒と健康	<ul style="list-style-type: none"> 飲酒が身体に及ぼす影響を理解する。 未成年者の飲酒が身体に大きな影響を及ぼし依存性になりやすいことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 飲酒の害について調べまとめることができる。 未成年の飲酒の危険性を知り進められた際にどのように対処すべきか考えまとめる。 		◎		観察 成果物

【中学校モデル校展開例（第1時）】

時間	主な学習内容・活動	PP 番号	○指導上の留意点◆評価
はじめ 8分	<p>前時の生活習慣病について振り返り 本時の学習課題について考える</p> <p>発問：病気「X」は何だろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病気「X」は誰もがなりうる病気 ・病気「X」は原因がわからないものもある ・病気「X」は恐竜もなる病気 ・50歳前後から増える ・病気「X」は2人に1人がかかるが早期発見で90%以上は治る ・病気「X」は日本人死因1位で生活習慣も要因の1つ <p>本時のめあてを確認する</p>	<p>1</p> <p>2</p>	<p>○既習事項を確認することで、生徒の興味・関心を引き出せるようにする。</p> <p>○授業はじめに、身近な方ががんにかかっていたり、亡くなったりしているかもしれないが、本時はがんのことを正しく理解し、健康に過ごすための授業なので、知識をしっかりと理解することを伝える。</p> 
	<p>がんがどのような病気か知り、予防や危険性をどのように下げればよいか考えま</p>		
	<p>(1) ワークシートの記入</p>	3	<p>○がんという病気が何となく怖い等のイメージでしか捉えていないことに気づかせ、がんについての正しい知識や理解への興味・関心を高める。</p>
	<p>(2) 事前のアンケートからがんに対する生徒のイメージを確認する</p>	4	<p>(事前にアンケートをとり生徒の実態を把握する。)</p>
なか 32分	<p>がんがどういう病気か知る</p> <p>発問：がんの原因は何だろう。</p> <p>(1) パートナー同士で意見交換をして発表する</p> <p>(2) がんの原因は大きく分けて3つに分類できることを確認する</p> <p>(3) 原因がわからないがんもあることを理解する</p>	<p>5</p> <p>12</p> <p>13</p> <p>14</p> <p>15</p> <p>16</p>	<p>○がんがどのような病気なのか知る</p> <p>○日本のがんの現状を確認する</p> <p>○がんの原因が大きく分けて3つであること伝え何が原因か考える</p> <p>○男女の原因の違い、男女の生活習慣の違いについても理解させる</p> <p>○ウイルスや細菌による感染が原因で発生するがんがある事を理解させる</p>

	<p>(4) 日本のがんの現状について</p> <p>(5) ワークシートに記入しまとめる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>発問:がんになる危険性や重症化を減らすためにできることは何だろうか</p> </div> <p>(1)原因の3つの視点から具体的な予防策をグループで考えまとめ発表する</p> <p>(2) ワークシートに記入しまとめる</p> <p>がん検診の役割、大切さについて知る</p> <p>(1) 検診の大切さについて考えまとめる</p> <p>(2) 居住地域の受診率に触れ県平均の現状について意見交換を行う</p> <p>(3)がん検診を受けない理由や状況を確認する</p>	<p>17</p> <p>18</p> <p>19</p> <p>20</p> <p>21</p> <p>22</p> <p>23</p> <p>24</p> <p>25</p> <p>26</p> <p>27</p>	<p>○がんにはさまざまな原因があることをおさえる</p> <p>○また原因のわからないがんもあることを理解させる (小児がん)</p> <p>○病気の発症の3つの視点からそれぞれの予防策についてグループでまとめ発表し考えを深める</p> <p>○早期発見、早期治療の重要性を理解する</p> <p>○沖縄県と住んでいる地域の受診率の状況を確認する</p> <p>○受けない理由を考え、大人になっての検診の重要性を理解する</p>
<p>お わ り</p> <p>10 分</p>	<p>学習したことを振り返る。</p> <p>(1) 本時のまとめを行う。 ワークシートに記入</p> <p>(2) 本時の振り返り</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>発問:がんを予防するために、①「今自分にできること (家族にできることも含めて)」 ②「大人になってからできること」を考えよう。</p> </div> <p>(1)がんについて学習したことを振り返りながら、がんを予防するためにできること (検診も含めて) を今できることと、大人になってできることに分け、ワークシートにまとめる。</p>	<p>28</p>	<p>○がんに対する正しい知識を確認する。</p> <p>◆思考・判断・表現等 生活習慣病などの予防について、疾病等にかかるリスクを軽減し健康を保持増進する方法を考え、選択した理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、道筋を立てて伝え合っている。</p> <p>◆主体的に学習に取り組む態度 (観察) 生活習慣病などの予防について、課題の解決に向けての学習に自主的に取り組もうとしている。</p> <p>○がんにかかっても、現代は「がんとともに生きる社会」であり、仕事や社会生活をしながら治療を受けることができる事を確認する。</p> <p>○時間があれば、感想等もまとめ、発表を行う。</p>

【板書計画】

めあて
 ()について理解を深め健康的な生活の実践につなげよう。

問い：病気「X」について

- ①病気「X」は誰もがなりうる病気
- ②病気「X」は原因がわからないものもある
- ③病気「X」は恐竜もなる病気
- ④50歳前後から増える
- ⑤病気「X」は2人に1人がかかるが早期発見で90%以上は治る
- ⑥病気「X」は日本人死因1位（北中城村でも）で生活習慣も要因の1つ

問い：がんの原因は何だろう。

- ・細菌・ウイルス
- ・生活習慣
- ・遺伝的要素（原因不明）

問い：がんになる危険性を減らすためにできることは何だろうか

グループの意見

まとめ
 がんとは・・・

振り返り

- ・今できること
- ・大人になってできることの2つの視点から記入。

【高等学校モデル校：単元の指導と評価の計画】（*a:関心・意欲・態度、b:思考・判断、c:知識・理解）

時間	ねらい	学習内容	学習活動	a	b	c	評価規準	評価方法
1	1. 日本におけるがんの現状を理解し、その発生や種類、進行について理解する。 2. がんの早期発見時の完治率から、自己の体（体調・症状）への気づきへ意識を持たせる。	・がんの現状 ・がんの発生と種類、進行 ・早期発見と完治率	○日本におけるがんの現状を理解し、がんそのものについて理解する。 ○自己の体（体調・症状）に目を向け生活習慣を振り返る。	◎		◎	がんの疾病概念について理解したことを発言したり、記述したりしている。 他者の考えに触れながら、より深く自己の健康に目を向けようとしている。	成果物 観察 成果物
2	1. がんの原因と予防法を理解し、健康のための望ましい生活習慣について考える。 2. がん患者を含めたがんと共生について考える。	・がんの原因治療と予防 ・がん患者の理解と共生	○がんの原因と予防法を考える。 ○望ましい生活習慣を考える。 ○がんと共生について考える。		◎	◎	がんの原因をふまえ、予防法や望ましい生活習慣を考えることができる。 がん患者に対する正しい認識及び共生について、考えを深めることができる。	成果物 成果物

【高等学校モデル校本時の展開（第1時）】

時間	主な学習内容・活動	p p	○指導上の留意点 ◆評価
5 分	<p>【本時の学習内容と目標の確認】</p> <p>発問①：この後、何が起こるでしょうか。映像</p> <p>(1) 予測できることを発言させる。 (2) 映像を視聴し正解を確認する。 (3) 喫煙と健康の関係について以前学習したことを確認する。</p> <p>発問②：がんに対してどんなイメージがあります</p> <p>(1) 自由に発言させて共有する。 (2) スライドで大まかなイメージを示す。</p> <p>【学習目標の確認】</p> <p>(1) 本日の授業内容と目標を説明する。 目標：①日本におけるがんの状況を理解する。 ②がんのしくみを理解しその種類にふれる。 ③がんの進行について理解する。 ④がんの早期発見について考える。</p>	<p>PP 1</p> <p>PP 3</p> <p>PP 5</p> <p>PP 7</p>	<p>○映像の視聴により、生徒の興味・関心を高める。 <u>(映像の内容)</u> 母親が家事をしている→子供がその間に母親のバックからタバコを盗む→(いったん画像を停止し生徒に理由を考えさせる)→子供は母親に問い詰められる→子供は健康に悪いタバコを「母親に吸ってほしくなくてカバンからとった」ことを告げる。 (映像、CM、本等を教材として活用し、より生徒が興味関心を持つような導入の工夫を行う)</p> <p>○映像の意図について説明する。</p> <p>○生徒のイメージには、不治の病、死に至るなどのマイナス面が中心になると予測されるが、がんを正しく理解し、不安要素を取り除くための学習であることを強調する。</p> <p>○スライドで表示する。 ○がんの内容についてより具体的に学習することを意識させる。 ○近親者の罹患など、がんと身近な生徒がいる場合についても、配慮をしながら、授業の意義について理解させる。</p>
	<p>【がんの現状】</p> <p>発問③：日本では○人に一人ががんになるといわれている。 ○に入る数字は？</p> <p>(1) 「がん」になる可能性が2人に1人であること、日本人の死因の第1位であることを確認する。 (2) 日本の主ながんによる死亡数を確認する。 約37万人(2018)</p>	<p>PP 8 PP12</p>	<p>○がんの現状について、日本の現状を理解させ、身近な問題として認識させる。</p> <p>○がんによる死亡者数の増加と平均寿命の推移について触れ、長生きとの関連を意識づける。</p>

<p>展開</p> <p>35分</p>	<p>【がんのしくみと種類】</p> <p>発問④：健康な体がどうなることを「がん」というのか。</p> <p>(1)ペアで話し合い発言させる。 (2)「がん」は細胞が悪性化したものであることを説明する。 (3)体のいたるところにできる可能性があることを説明する。 がんができにくい臓器にも触れる。</p> <p>【がんの進行】</p> <p>(1)がんの進行について理解する。</p> <p>【がんの早期発見】</p> <p>発問⑥：「95%」は何を意味するだろう。</p> <p>(1)ペアで話し合い発言させる。 (2)がんの完治率であることを説明。 (3)どうすれば95%になるのか考えさせる。 (4)早期発見をすることが重要であること理解させる。 (5)そのために、自己の体（体調・症状）への気付きが重要であることを理解させる。 (6)がん検診（定期的な）の重要性を説明する。</p> <p>【学習の振り返り】</p> <p>(1)スライドで学習内容の確認。</p> <p>【次時に向けて】</p> <p>発問⑥：がんの原因を考えてみよう。</p> <p>(1)各自の考えをワークシートに記入する。※記入のみ</p>	<p>PP13 PP21</p> <p>PP22 PP24</p> <p>PP25 PP34</p> <p>PP35</p> <p>PP36</p>	<p>○「細胞分裂」をキーワードに、がんが体のいたるところにできる可能性、平均寿命の伸びに伴うがん発生の増加について、関連づけること意識づける。</p> <p>○がん早期発見時の完治率に結びつけて体（体調・症状）について意識させる。</p> <p>○早期発見などが重要であることを意識させ、そのためには、自己の体（体調・症状）の変化に関心を持つこと、異変に気付いた場合は検診（がんに限ったことではない）を受けることが重要であると意識させる。</p> <p>○がんの原因、予防法や治療法などを学習することをふまえ、がんの原因について考えさせる。</p> <p>○主な原因が3つあることをアドバイスする。</p>
<p>まとめ</p> <p>10分</p>	<p>【小テスト 体調管理の意識調査】</p> <p>【次時の告知】</p> <p>・がんの原因、予防法や治療法 インフォームドコンセント、セカンドオピニオン含む</p>	<p>PP35</p>	<p>◎Forms 体調管理の意識調査（事後調査）</p> <p>○現代は「がんとともに生きる社会」であり、がんの原因を理解した上で予防法や治療法の選択、がんとの共生について学ぶことを意識させる。</p>

(3) 外部講師の養成に向けて取り組んだ内容

実施時期	実施事項	備考
8月6日	<p>【第1回外部講師養成プログラム策定委員会】</p> <p>1. 外部講師養成プログラムの方向性の確認</p> <p>(1) 受講対象者 沖縄県がん患者・経験者</p> <p>(2) プログラム内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「NPO 法人がんサポートかごしま」のプログラム内容を参考に検討を進める。 ・外部講師（がん患者・経験者）が45分～50分の1コマ、授業を行える力を養成するために、プログラムを配列する。 <p>(3) 実施日数 2日間程度、土・日開催を軸に日程を調整する。</p> <p>(4) 実施形態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義・ワークショップ型とする。 ・今後のコロナウイルス感染拡大の状況も視野に、ZOOM等を使用し遠隔からの実施方法についても検討する。 <p>2. 今後の取り組み</p> <p>(1) プログラム内容・講師派遣人数・講師日程調整 担当：三好・奥間（天野・松本）</p> <p>(2) プログラム日程調整 担当：奥間・三好・増田</p> <p>(3) 沖縄県がん患者会への呼びかけ・日程調整 担当：安里・又吉</p> <p>(4) 第2回策定委員会（内容・日程の進捗状況確認） 担当：奥間</p> <p>以上の調整を8月中をめどに行い、メール等で進捗状況を確認しながらプログラム策定を進める。</p>	Web開催 (ZOOM)
10月7日	<p>【第2回外部講師養成プログラム策定委員会】</p> <p>「学校におけるがん教育のための外部講師養成プログラム策定・研修会」の内容検討。</p> <p>1. がん教育外部講師養成プログラム検討</p> <p>(1) 実施日 令和2年11月28日(土)13:00～17:00(1日目) 令和2年11月29日(日)10:00～17:00(2日目)</p> <p>(2) 受講対象 沖縄県在住のがん患者・がん経験者</p> <p>(3) 研修内容 「NPO 法人がんサポートかごしま」が実施しているプログラムを</p>	Web開催 (ZOOM)

	<p>参考に作成し、受講者が基本的な事項を理解できる内容となるよう配慮すること。沖縄県のがん教育の取り組み状況も追加。</p> <p>(4) 講師(案)</p> <p>講義①：植田誠治氏(聖心女子大学教授)</p> <p>講義④：若尾文彦(国立がん研究センター)</p> <p>講義⑥：助友裕子(日本女子体育大学教授)</p> <p>ワークショップ：全がん連理事長天野、副理事長松本 がんサポートかごしま理事長三好 STAFF</p> <p>(5) 広報方法：「ちらし」を作成し関係団体へ広報</p> <p>広 報 先：策定委員会推薦団体 「おきなわがんサポートハンドブック」掲載の団体 一般社団法人沖縄県がん患者会連合会 HP への掲載</p> <p>2 その他</p> <p>(1) 今般の状況を踏まえ、すべて ZOOM を活用したオンライン研修とする。</p> <p>(2) メール等で随時打ち合わせを行い、進捗状況を確認する。</p>	
11月26日	<p>【がん教育外部講師養成オンライン研修会事前打ち合わせ】</p> <p>1 打ち合わせ参加者：がんサポートかごしま 理事長：三好 綾 理事長：野田 真記子 事務局：牧元 洋子</p> <p>2 内容</p> <p>(1) 役割分担 (2)シナリオ確認 (3)ZOOM 設定について (4) ワークショップの進め方(ブレイクアウト等)</p>	Web 開催 (ZOOM)

がん教育外部講師のための オンライン研修

1 がん教育とは何？

第3期がん対策推進計画では「がん教育」目的について「①がんについて正しく理解することができるようにする。②健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする」となっています。がんを学ぶことによって、自他の健康と命の大切さについて学び、がんと向き合う人々と共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を図る教育が「がん教育」です。

2 なぜ外部講師が必要なの？

がん患者・がん経験者の方々から、自身の体験やがんに関する知識を学ぶことは、児童生徒が「がんについて正しく理解することができるようにする」ために、大変意義のあることで、効果的とされています。

3 沖縄県内の学校で外部講師を活用したがん教育の現状は？

沖縄県内の小・中・高等学校では、がん教育において、外部講師を活用することが中々できていません。がん教育を実施する学校は増えてきていますが、外部講師を引き受けて下さる方がまだまだ少ないのが現状です。

4 外部講師って「何」を「どう話せば」いいの？

今回の研修では、「何」を「どう話せば」いいの？に少しでもお答えできるように講義やワークショップ等、研修内容を選定しています。少しでも興味を持った方、まずは受講してみてください。

【研修について】

日 時：1日目：令和2年11月28日土曜日 13：00～17：00

2日目：令和2年11月29日日曜日 10：00～17：00

* 2日間の受講をお願いします。

研修方式：WEB 会議システム ZOOM を活用したオンライン研修

講 師：日本女子体育大学 教授：助友裕子 他

全がん連 理事長：天野慎介 副理事長：松本陽子 事務局：三好綾

受講対象：沖縄県内在住のがん患者・がん経験者（定員：30名）

* カメラ付き IT 機器で ZOOM の使用が可能の方。

* 資料は全てメールで配信予定です。

* ZOOM 使用に関するサポートはできません。

主 催：沖縄県教育委員会

協力団体：「NPO 法人がんサポートかごしま」

申 込：下記の URL から申し込み下さい。

URL：https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=IpygVJPVSkS1vBluMOSdTGmZ5LKu_VFjsXB0wc-wbpUOUg0SQRBUQVLSk+EMz1CM1hRWDVPNUhCMS4u

申込み切：令和2年11月18日（水）

担 当：沖縄県教育庁保健体育課（奥間）

TEL：098-866-2726 E-mail：okumaasm@pref.okinawa.lg.jp



沖縄県教育委員会主催

文部科学省委託事業がん教育総合支援事業

がん教育外部講師養成オンライン研修

【11月28日(土)】



	時 間		内 容
1	12:45	13:00	【Web会議システム ZOOM】 オンライン開場
2	13:00	13:10	開会の挨拶、内容説明
3	13:10	13:30	自己紹介
4	13:30	14:30	講義① 「学校におけるがん教育について」 (がん教育が求められる背景・外部講師を活用したがん教育について ・教育課程への位置付け等)
5	14:30	15:00	講義② 「沖縄県のがん教育の取り組みについて」
6	15:00	15:10	休憩
7	15:10	16:10	講義③ 「こんな風にごん教育やっています ～がん経験者の立場から～」
8	16:10	16:50	講師の先生方に質疑・応答 外部講師についての疑問や不安を聞いてみよう
9	16:50	17:00	まとめ 明日の課題等
10	17:00		終了

【11月29日(日)】

	時 間		内 容
11	9:45	10:00	【Web会議システム ZOOM】 オンライン開場
12	10:00	10:05	挨拶・内容説明
13	10:05	10:35	講義④ 「がんの知識をどんな言葉で伝えればわかりやすいか」
14	10:35	11:30	講義⑤ 「オンライン授業に対応するために気をつけたいこと」 ～コロナ禍での外部講師対応の方法～
15	11:30	12:00	講師に質問・意見交換
16	12:00	13:00	休憩
17	13:00	14:00	ワークショップ① 「話したいことを整理してみよう」
18	14:00	15:10	ワークショップ② 「自分の体験をみんなの前で伝える練習～3人1組」
19	15:10	16:10	ワークショップ② 「自分の体験をみんなの前で伝えてみよう」
20	16:10	17:00	講義⑥ 「外部講師養成研修会に参加した皆さんに期待すること」
21	17:00		終了

協力団体：「NPO 法人がんサポートかごしま」

沖縄県教育+B109:U122 委員会主催 文部科学省委託事業がん教育総合支援事業
がん教育外部講師養成オンライン研修会日程【沖縄県】

【令和2年11月28日（土）】 協力団体：「NPO 法人がんサポートかごしま」					
	開始	終了	内 容	講 師・担 当	
11月 28日	1	12:45	13:00	【Web】オンライン開場	保健体育課指導主事 奥間
	2	13:00	13:10	内容説明 開会の挨拶	保健体育課指導主事 奥間 課長 太田 守克 班長 宮城 敏也
	3	13:10	13:30	自己紹介	スタッフ・参加者全員
	4	13:30	14:30	講義① 「学校におけるがん教育 について」	聖心女子大学現代教養学部教育 学科 教授・副学長 植田 誠治
	5	14:30	15:00	講義②「沖縄県のがん教育の取り 組みについて」	保健体育課指導主事 奥間 あさみ
	6	15:00	15:10	休憩	
	7	15:10	16:10	講義③「こんな風のがん教育やっ ています。～がん経験者の 立場から～」	全がん連理事長 天野 慎介 副理事長 松本 陽子 NPO 法人 がんサポートかごしま 副理事長 野田真記子 事務局 牧元 洋子
	8	16:10	16:50	講師の先生方に質疑・応答 外部講師についての疑問や不安を 聞いてみよう	【座長】 NPO 法人がんサポートかごしま 理事長 三好 綾
	9	16:50	17:00	まとめ 明日の課題等	保健体育課指導主事 奥間
	10	17:00		1日目 終了	
令和2年11月29日					
	11	9:40	9:55	【Web】オンライン開場	保健体育課指導主事 奥間
	12	9:55	10:00	挨拶・内容説明	
	13	10:00	10:50	講義④「がんの知識をどんな言葉 で伝えればわかりやすいか」	帝京大学医学部 内科学講座帝 京大学医学部附属病院 腫瘍内科 准教授 渡邊 清高

11月 29日	14	10:50	11:45	講義⑤「オンライン授業に対応するために気をつけたいこと」 ～コロナ禍での外部講師 対応の方法～	NPO 法人がんサポートかごしま 理事長 三好 綾 事務局 牧元 洋子
	15	11:45	12:00	講師に質問・意見交換	保健体育課指導主事 奥間
	16	12:00	13:00	休憩	
	17	13:00	14:00	ワークショップ① 「話したいことを整理し てみよう」	全がん連 理事長 天野 慎介 副理事長 松本 陽子 NPO 法人がんサポートかごしま 理事長 三好 綾 副理事長 野田真記子 事務局 牧元 洋子
	18	14:00	15:10	ワークショップ② 「自分の体験をみんなの前で伝え る練習～3人1組」	
	19	15:10	16:10	ワークショップ③「自分の体験を みんなの前で伝えてみよう」	
	20	16:10	17:00	講義⑥ 「外部講師養成研修会に参加 した皆さんに期待すること」	日本女子体育大学体育学部 健康スポーツ学科 教授 助友 裕子
	21	17:00		閉会	保健体育課指導主事 奥間

2. 事業の達成度について

【事業成果】

学校におけるがん教育の充実を図るためには、がんに関する正しい知識と正しい認識、命の大切さについて正しく理解させ、深めることが必要であることから、医療関係者等を含めた「沖縄県連絡協議会」を設置し、「がん教育に関する計画」の作成等に対し、指導・助言を行うことで、学校におけるより効果的ながん教育の在り方について、理解を深め、県内への啓発を図ることができた。

①「がん教育」研修会

ア がん教育に関する指導に携わる教職員のがんに対する正しい知識と意識の向上及び学校におけるがん教育に関する指導の充実を図るための研修会を実施したことで、がん教育の必要性が理解され実践事例や指導教材等の普及啓発ができた。

イ 行政説明の中で、学校におけるがん教育に関する内容の位置付けについて説明し、学校におけるがん教育の具体的な方向性を示すことができた。

ウ 聖心女子大学文学部 植田 誠治 教授による講義「学校におけるがん教育の考え方・進め方」により学校におけるがん教育の考え方、授業の進め方について理解を深める事ができた。

② がん教育教材検討委員会について

ア 小・中・高各校種、発達段階に応じた適切な指導の在り方について検討を重ね、新学習指導要領の全面実施に向けて、文科省作成の指導参考教材や地域の健康診断受診率等のデータを用いた、指導用参考資料を作成することができた。

③モデル校による取り組みについて

ア アンケート結果より（次ページ参照）

(ア)がんの学習について

がんの学習が健康な生活を送るために「重要」であり、「役に立つ」との回答が93%以上となり、健康教育としてのがん教育につながる結果が示された。

(イ)知識編

がんは誰もがかかる可能性があり(98.1%)、日本人の死因の1位(93.6%)であることなど身近な病気であることへの理解が深まった。

「予防できるがん」があること(98.7%)や「早期発見」すれば治りやすい(97.4%)、がんの治療法等の正しい理解、定期検診の受診においても正答率が向上した。

「がんは進行すると、今まで通りの生活が出来なくなったり、命を失ったりすることがある」については正答率が下がっており、今後の課題である。

(ウ)意識編

たばこを吸わないでいようとする意識、健康な体づくりへの取り組み、がん検診の受診、がんの治療法の決定、がん患者の生活の理解、家族との対話等の意識についても変容が見られた。

イ 小学校においては、保健領域での授業実践を行い、がんの理解と保健活動においてがんの原因や早期発見の大切さ、健康な生活を送るために今自分にできることについて、学習を深めることができた。また、特別の教科道徳において外部講師を招聘(オンライン)しての「命の授業」へと、教科横断的な視点での取り組みを実践した。

ウ 中学校においては、保健分野での授業実践を行い、がんの原因と予防において、がんそのものについてやがんになるリスクを下げるため、今自分にできること、大人になってからできることについて、居住地のがん検診受診率等を活用した実践を行った。

エ 高等学校においては、科目保健での授業実践を行い、がんと健康においてICT機器を活用し、生徒の興味・関心を高めながら、主体的に学習に参加できる取り組みの実践事例を示すことができた。また、授業前アンケートにおいて無回答の生徒が6人いたが、授業後のアンケートでは0人となっており、意欲的に取り組んでいることが示された。

オ 検証授業前の模擬授業は小学校においてはモデル校及び他小学校1校(検討会実施)にて実施、中学校モデル校(検討会実施)及び高等学校モデル校においても積極的に実施され、より深く教材を検討できた。

【生徒への事前・事後アンケート結果のまとめ】

1) がんの学習について

※「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」「思わない」から選択

	[事前]	[事後]
aがんの学習は、健康な生活を送るために重要だ(そう思う)・・・	77.2%	→93.6%
bがんの学習は、健康な生活を送るために役立つ(そう思う)・・・	78.4%	→93.6%

2) 知識編 ※「正しい」「誤り」から選択

aがんは誰もがかかる可能性のある病気である(正しい)……………	86.2%	→98.1%
---------------------------------	-------	--------

bがんは進行すると、今まで通りの生活が出来なくなったり、 命を失ったりすることがある。(正しい) ……………	94.6%	→80.8%
cがんは日本人の死因の第2位である(誤り)……………	21.2%	→93.6%
d たばこを吸わないこと、バランスよく食事すること、適度な運動 をすることなどによって、予防できるがんもある(正しい) ……	89.2%	→98.7%
e 早期発見すれば、がんは治りやすい(正しい) ……………	89.8%	→ 97.4%
f体の調子がよい場合は、定期的に検診を受けなくてもよい(誤り)	77.2%	→ 92.9%
gがんの治療法には手術しかない(誤り) *小・高のみ……………	60.0%	→ 85.1%
hがんの痛みは我慢するしかない(誤り) *小・高のみ……………	76.2%	→ 88.3%

3) 意識編

※「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」
「思わない」から選択

a自分のがんにならないと思う(思わない) ……………	30.5%	→36.5%
b将来、たばこを吸わないでいようと思う(そう思う) ……………	79.0%	→89.7%
c日頃から、バランスのよい食事や適度に運動を行うなど健康な 体づくりに取り組もうと思う(そう思う) ……………	68.3%	→82.7%
dがん検診を受けられる年齢になったら検診を受けようと思う(そう思う) ……	76.6%	→87.8%
eがんの治療方法がいくつかあるが、医師が決めるものである(思わない) *小・高のみ……………	19.0%	→36.2%
fがんになっても生活の質を高めることができる(そう思う) …… *小・高のみ……………	40.0%	→42.6%
gがんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい(そう思う) ……	74.3%	→88.5%
hがんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う(そう思う)	63.5%	→78.8%
i家族や身近な人が健康であって欲しいと思う(そう思う) ……………	88.6%	→93.6%
J長生きするためには、健康な体づくりに取り組もうと思う(そう思う)	82.0%	→90.4%

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

(1) 各学校の教育課程への位置付けの明確化

ア 新学習指導要領の中学校(令和3年度実施)、高等学校(令和4年度実施)においては、「がんについても取り扱うもの」と明記された。同解説においても、小学校(本年度実施)では「触れるようにする」、中学校、高等学校では「理解させる」という文言が示示されている事を、全面実施に向けて周知を徹底していく予定だったが、コロナ禍のため、十分にできなかった。来年度も、周知を徹底していくことが課題である。

イ がん教育の目標を達成するためには、がんに対する正しい知識を保健体育科の保健学習で身に付けさせ、関連教科、特活等を通じて健康と命の大切さ、がん患者やがん患者家族等への共感的理解について実践していくことが必要である。体育・保健体育科の保健学習を中核に他の教科と連携した指導(カリキュラム・マネジメントの視点)について、取り組みを継続して提案していくことが、引き続き課題となる。

(2) 研修会等の充実と普及・推進

ア がん教育に対する教職員の不安感が大きく、がん教育についての理解を深める必要がある。そのためにも指導者研修会を充実させ、保健体育科教諭、養護教諭等への積極的な参加を呼びかけていく必要がある。また、がん教育実施状況調査(コロナ禍のため令和元・2年度調査無)が行われる事を管理職へも周知する必要がある。

イ コロナ禍のためモデル校の取り組みを参加者を限定した検証授業として、教材を検討した。そのため、広く公開することができなかった。今後、管理職研修会や教諭向け研修会等の行政説明において、普及・推進していく必要がある。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

(1) 外部講師の養成について

ア 本年度の第1の目標であるがん教育実施率の向上のためには、まずは教員による授業実践を推進しているが、平行して外部講師の活用についても研究を進めて行く必要がある。

イ 外部講師養成プログラム策定委員会からの提案により、プログラムを策定し研修会を実施したが、企画・運営面において、県教育委員会以外の部署や他機関との連携が必要である。今後継続的(或いは不定期)に実施し、外部講師を養成していくのであれば、沖縄県がん連携診療会議等からの助言等も必要である。

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

ア 構成員

構成員 22 名

医師 3 名（小児科・呼吸器内科・産婦人科各 1 名）、大学教授、MSW、保健所職員 2 名、がん患者会代表、学校長 3 名、養護教諭 3 名、教育委員会事務局 8 名

イ 開催時期、検討内容

令和 3 年 2 月 24 日 書面にて令和 2 年度の事業報告を行った。

② 教育委員会としての取組

ア がん教育推進協議会の書面開催

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から書面開催とし、令和 2 年度の事業報告を行った。

イ がん教育研修会について

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から集合研修は中止とし、行政説明及び実践例の資料を学校へ配付した。

ウ 推進校の選定と取組への支援

令和 2 年度はがん教育推進校 1 校を指定し、がん教育推進のモデルとなるような積極的な取組を進めた。また、推進校の実践を基に、市内の協力校で授業実践と改善を重ね、新潟市の全ての学校で積極的な取組ができるよう「汎用性」を意識した「新潟市がん教育授業モデル」の作成に取り組んだ。活用した教材は「新潟市がん教育パッケージ」として DVD に収め、小・中学校に配付した。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

推進協議会の構成員として意見をもらったり、養護教諭の研修会の講師や学校における授業・学校保健委員会への参加により、校区の情報を共有し、専門的立場から指導・助言をしてもらったりした。

(2) モデル校及び協力校における取組

①新潟市立潟東中学校の実践（モデル校）・・・「汎用性の追究 2 年生での実践！」

【日時・対象学年】令和 2 年 1 月 4 日（水）2 限（3 年生）、3 限（2 年生）

【実践内容】

- ・令和元年度のがん教育推進校である巻東中学校における 3 年生の実践は、汎用性を追求した授業であり、どこの学校でも取り組むことができるような授業モデルとして紹介された。潟東中学校は、そのモデル授業を参考にして実践した。
- ・外部講師をコンテンツで代用した。
- ・令和 3 年度の学習指導要領本格実施を踏まえ、保健体育科保健分野「健康な生活と疾病の予防」でがんの内容について実施した。

- ・授業では、がんについて正しく学ぶことで、がん検診や予防行動の大切を理解し、早期発見・早期治療により多くの場合は治癒する可能性が高まることを理解し、がんに対する捉え方、考え方を深めた。また、生徒の学校における学びを家庭へつなげて、家族へのがん予防のための行動や検診の大切さを伝えた。
- ・3年生での実践では、ねらいを達成することができた。しかし、同じ内容を2年生で実施したところ、発達段階に微妙な違いからか、3年生ほどがんに対する理解は深まる授業とならなかった。
- ・2年生においては、教科道徳において、がん患者の生き方を通して、命の大切さについての学習を終えていたにもかかわらず、生徒の中で学習内容が結びつかなかった。
- ・2年生と3年生に対して、同日に授業を実施したことで、発達段階による微妙な違いにおける生徒の理解度の違いに気付くことができた。2年生の発達段階に合わせた内容を検討していく必要があることが分かった。

②新潟市立東石山中学校（協力校）の実践・・・「教科書との融合 ―がんを通して、生活習慣病を学ぶ―」
【日時・対象学年】 令和3年2月2日（火）5限, 2月8日（月）5限（2年生）

【実践内容】

- ・潟東中学校での実践の振り返りから、2年生の発達段階を考慮した内容に指導案を改善して取り組んだ。2年生では、がんを「病気」から入るのではなく、「人」から入ることで、がんをより自然に受け止められるような工夫をした。
- ・がんになっても、早期発見・早期治療で、これまでの生活に戻すことができるという希望をもちつつ、がんという病気を理解していくことは、「がん=こわい」という概念の変容を図りやすく、がんに対する捉え方や考え方は広がり、より身近で自分事として考え、理解を深めていた。
- ・学級担任であり、保健体育科である教員が行う授業では、学級の実態を十分に把握しているため、生徒は安心した環境の中で個々の発言を自然に行い、班活動も積極的に行われ、多様な考えを出すことができた。学級担任が行う授業のよさが明らかになったといえる。
- ・保護者の協力を得て、身近な大人の健康の悩みを知り、それは中学生である今の自分の健康課題でもあることに気づき、若いうちからの予防行動ががんの予防につながることを理解することができた。
- ・2時間目の生活習慣病についても、がんを通して理解を深め、生涯を通じて健康で過ごすためにはどのような生活をしたらよいかを自分事として考え、大切な家族の健康についても考えることができた。

2. 事業の達成度について

(1) がん教育推進モデル校の成果

2 年 生 事 前	がんの印象(がんは怖い病気だと思ふ)				治療で治ると思ふか			
	そう思ふ	やや	あまり	思わない	そう思ふ	やや	あまり	思わない
	3	1	5	33	9	26	3	7
2 年 生 事 後	がんの印象				治療で治ると思ふか			
	そう思ふ	やや	あまり	思わない	そう思ふ	やや	あまり	思わない
	4	5	15	16	25	14	1	1
2 年 生 事 前	自分はがんになると思ふか				がんは予防できると思ふか			
	そう思ふ	やや	あまり	思わない	そう思ふ	やや	あまり	思わない
	6	15	5	19	29	8	4	4
2 年 生 事 後	自分はがんになると思ふか				がんは予防できると思ふか			
	そう思ふ	やや	あまり	思わない	そう思ふ	やや	あまり	思わない
	8	22	3	8	35	4	1	1
2 年 生 事 前	将来検診を受けようと思ふか				子宮頸がん予防接種を知っているか			
	そう思ふ	やや	あまり	思わない	そう思ふ	やや	あまり	思わない
	28	12	5	0	3	42	0	0
2 年 生 事 後	将来検診を受けようと思ふか				子宮頸がん予防接種を知っているか			
	そう思ふ	やや	あまり	思わない	そう思ふ	やや	あまり	思わない
	30	9	1	0	11	28	0	0

3 年 生 事 前	がんの印象（がんは怖い病気だと思ふ）				治療で治ると思ふか			
	そう思ふ	やや	あまり	思わない	そう思ふ	やや	あまり	思わない
	0	1	5	28	10	21	0	3
	自分はがんになると思ふか				がんは予防できると思ふか			
そう思ふ	やや	あまり	思わない	そう思ふ	やや	あまり	思わない	
3	14	1	16	21	10	0	3	
将来検診を受けようと思ふか				子宮頸がん予防接種を知っているか				
そう思ふ	やや	あまり	思わない	そう思ふ	やや	あまり	思わない	
28	4	2	0	9	25	0	0	

3 年 生 事 後	がんの印象				治療で治ると思ふか			
	そう思ふ	やや	あまり	思わない	そう思ふ	やや	あまり	思わない
	4	6	12	12	22	12	0	0
	自分はがんになると思ふか				がんは予防できると思ふか			
そう思ふ	やや	あまり	思わない	そう思ふ	やや	あまり	思わない	
5	18	1	10	28	5	0	1	
将来検診を受けようと思ふか				子宮頸がん予防接種を知っているか				
そう思ふ	やや	あまり	思わない	そう思ふ	やや	あまり	思わない	
32	2	0	0	16	18	0	0	

新学習指導要領においてがん教育を履修する2年生に対する授業の在り方を検討することができた。これまでの対象だった3年生から2年生に対象が変わる際の課題が明確になり、2年生の発達段階を考慮した授業内容を追究することができた。

多様な方法で授業実践を積み重ねることで、「がん＝こわい」という概念の変容を図り、生徒のがんに対する正しい理解への深まりやがんに対する捉えや考えのイメージを広げることができた。今後も授業実践の積み重ねを継続していく必要がある。

外部講師の活用については、「新潟市モデル」のように授業スライドの一部に活用する方法においても、それぞれの立場での専門的な内容を生徒に伝えることができることが分かった。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

- (1) 中学校においては、令和3年度から学習指導要領が全面実施となるが、今年度は研修会や公開授業を実施することができなかつたため、全面実施に向けての準備が十分とはいえない状況であった。
- (2) 平成29年度から令和2年度までの委託事業での研修会や授業実践の取組を踏まえ、各校で確実に実施できるよう働き掛けを継続する。がん教育の学習内容は、保健体育科が中心になることから、保健体育科教師に対する積極的なアプローチを行っていく必要がある。
- (3) 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、外部講師を招いての研修会は中止、各校での外部講師の活用も実現できなかったが、推進校の実践においては、外部講師についての説明や外部講師からのメッセージを指導資料の教材の一部に取り入れた授業を実施した。

令和元年度の協議会で、教材としての活用方法を広く紹介していくことが、がん教育の確実な実施につながり、活用における時間や謝金の確保といった課題の解決にもつながるという意見が多かつたことも踏まえ、令和2年度は、実践紹介の資料配付の際に、外部講師の活用について紹介した。今後も活用のほか、外部講師の体制整備の在り方を検討していく。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- (1) がん教育を全ての学校で取り組むことができるように、文部科学省通知、ガイドライン等、教材についてさらなる周知を図る。
- (2) がん教育実践校の実践を周知する。
- (3) 「新潟市がん教育パッケージ」及びリーフレットの有効的な活用について検討する。

1. 事業の具体的内容について

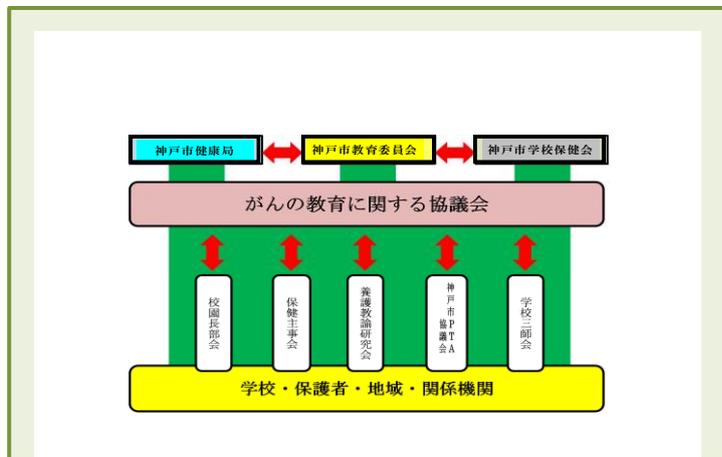
(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

18人

- 内訳：医師(内科)4人(学校保健会会長1)
- 歯科医師1人
- 薬剤師1人(学校薬剤師会副会長)
- P T A 1人
- がん患者の会1人
- 校長3人(小1、中1、高1)
- 養護教諭1人
- 神戸市保健局2人
- 神戸市教育委員会4人



2. 開催時期、検討内容

○第1回協議会：書面開催

- ・令和元年度がん教育の取組報告
- ・令和2年度がん教育の推進「がん教育総合支援」について
- ・令和2年度がん教育の計画について
- ・教職員向け研修会の実施について
- ・学校における取組、推進校の選定について
- ・外部講師の活用に対応できる条件整備について
- ・神戸市作成リーフレットの活用について

○第2回協議会：書面開催

- ・令和2年度の取組について
- ・推進校(原田中学校)(有馬中学校)でのがん教育の実践(授業等)について
- ・「がん教育 外部講師 協力団体紹介一覧」について
- ・令和3年度の取組の方向性について

② 教育委員会としての取組

- ・あらゆる機会をとらえ、がんに関する教育の必要性、国の動向、今年度の取組等を説明し、教職員の意識づけを図ると共に、課題となる内容の把握に努めた。
- ・研修会(コロナの影響により中止)
- ・神戸市作成リーフレット…保健局と協力して作成し、全市の中学2年生に配布した。
- ・実践事例集…推進校における取組をまとめ、全市の学校園に配布した。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

保健局主催の「神戸市がん対策懇話会」が1回開催された。関係部局として出席し、がんに関する教育も含め、神戸市のがん対策を進めるにあたり、がんの専門家、学識経験者や関係機関から、がん対策の在り方等への助言をいただくことができた。

また、保健局と連携して、リーフレット(中学生・家庭向け)を作成した。《後に詳細を記述》

(2) モデル校（推進校）における取組

①原田中学校の取組

○神戸市教育委員会 健康教育推進指定校としての研究実践

- ・テーマ：自他の命の大切さを学ぶ健康教育～主体的なヘルスリテラシーの育成を目指して～
- ・内 容：公開授業と学校保健委員会

1 公開授業 1年生「がんの予防について」

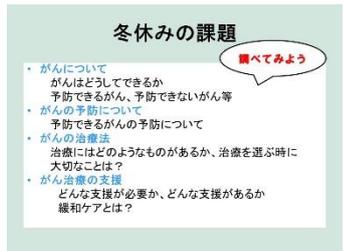
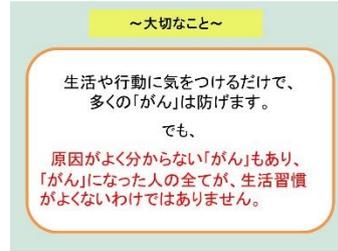
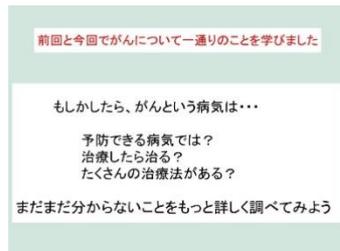
2 年生「がんやがんの治療法・支援について」

2 学校保健委員会 保健委員会による発表

テーマ「がんと感染症の予防から見えてくる大切なこと」

：講演会

テーマ「ひげのおじさんから君たちに伝えたいこと」



②有馬中学校の取組

○学校保健委員会：がんについて知ろう（「いのちの教育」の一環）

- ・テーマ：がんが身近な病気であることを知る。

：科学的な知識と正しい理解、そして適切な態度を身に付けて行動できるように学び、健康と命のたいせつさについて考える。

：「がんと共に生きる」生き方を通して、命の尊さを学ぶ。

- ・対 象：1年生、教職員、保護者

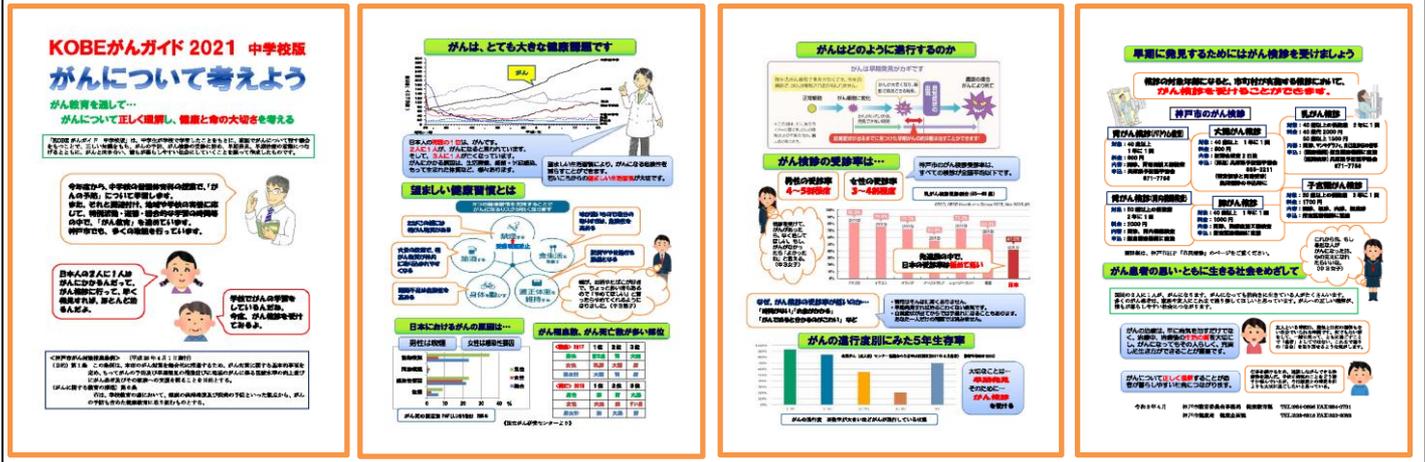
- ・内 容：講演会 演題「がん向き合って十余年、ひげの父さんから君たちに伝えたいこと」



(3) その他

○リーフレットの作成

- ・ねらい：このリーフレットを通して、家庭でがんについて話す機会をもつことで、がんについての正しい知識をもち、がんの予防、がん検診の受診に努め、早期発見、早期治療の意識につなげるとともに、がんと向き合い、誰もが暮らしやすい社会にしていくことを願って作成した。
- ・対象：中学2年生全員
- ・内容：「がんは、とても大きな健康課題です」「望ましい健康習慣とは」「日本におけるがんの原因は」「がん罹患数、がん死亡数が多い部位」「がんはどのように進行するのか」「がん検診の受診率」「がん進行度別にみた5年生存率」「神戸市がん検診」「がん患者の思い・ともに生きる社会」



2. 事業の達成度について

推進校の成果①【講演会後の感想より】

- 「がん」になるということは、体調面はもちろん、不安や恐怖によって「失ってしまうもの」のほうが多いというイメージをもっていた。しかし、「生きていることへの感謝」や「多くの人との出会い」など、手にするものもたくさんあることを知った。
- 「がん」になったら、暗い日常を送らなければならないと思っていた。(講師の)先生も、がんを患っている方だが、強く元気な生きている。インターネットではわからないものがわかった気がする。
- 「がん」=「死」ではない、という話が印象に残った。病院によって全く治療法が違うことや、自分に合った最善の治療法を探すことが大事なこと。早期に発見することも大事であること。
- 「がん」というものは、とても怖いものだというイメージをもっていたけど、それが変わった。がんになりにくい生活習慣や、がんになっても前向きに生きることの大切さ。小学生や中学生などの自死などが増えているけど、ぼくは何があらうと生きようと思った。話を聴いて、命を大事にしようと思った。
- 明るく、わかりやすく話をしてくれたけど、本当はつらいと思う。泣きたいくらいつらい気持ちの人を元気にするのは、周囲の人の声のかけ方次第だということを知った。つらい気持ちを楽にしてあげられるようなことをしたいと思った。
- 周りの人もそうだけど、いつ自分が「がん」になってしまうかわからない。「がん」について、もっと知ることが大事だと思うし、知ることによって「がん」と戦うこともできるようになるのだと思う。
- 「がん」になったら、自分の好きなことや、したいことができなくなる。とてもつらいと思う。
- 今日の話で初めて知ったことがあった。多分、家の人も知らない話がたくさんあったと思う。家の人にも話して、私がちゃんと伝えて、家族みんなが「がん」のことを考えたいと思った。
- 年をとるほど、「がん」になりやすくなる。現在、人生100年時代、少子高齢化が進むということは、ますます「がん」になりやすい時代になってきたということになる。ぼくも将来、「がん」になる危険性がある。知ることが大事だ。先生の話で、たくさん知ることができてよかった。

推進校の成果②【事前・事後アンケートより】

○早期発見すれば、がんは治りやすい。

《事前アンケート》

正しい	誤り	わからない
49	2	15

↓

《事後アンケート》

正しい	誤り	わからない
62	2	5

○がんの学習は健康な生活を送るために役立つ。

《事前アンケート》

正しい	誤り	わからない
59	1	9

↓

《事後アンケート》

正しい	誤り	わからない
65	1	3

○日頃から、バランスの良い食事や適度な運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う。

《事前アンケート》

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
32	29	5	2

↓

《事後アンケート》

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
49	16	3	0

○がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。

《事前アンケート》

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
33	24	8	2

↓

《事後アンケート》

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
42	20	6	1

○がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う。

《事前アンケート》

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
29	29	8	4

↓

《事後アンケート》

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
44	15	8	2

○長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う。

《事前アンケート》

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
51	15	1	0

↓

《事後アンケート》

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
56	13	0	0

○事前と事後で、生徒たちの「がん」に対する意識の変化は明らかである。自ら調べて知る。患者の方の声を聴いて考える。推進校として、がん教育に取り組んだことで、物事に対しての肯定的な考え方と前向きな行動への変容が見られたことが、一番の成果である。

3. 今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

- ・コロナ禍での、教職員向け研修会の開催方法について
- ・教職員に対する、がん教育への理解を更に深め、指導の手立てを学ぶための研修会の実施
- ・外部講師の人材確保と学校現場への紹介の仕方
- ・外部講師協力団体紹介一覧の更新
- ・文科省、対がん協会、保健福祉局、医師会等関係機関との連携強化
- ・がん患者やその家族への配慮等、がん教育を行ううえでの留意点について

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- ・中学校は全ての中学校で、がん教育を行うことを継続する
- ・中学校における、がん教育実施の実態（推進校以外）の把握の方法について確認する
- ・高等学校は令和4年度からの新学習指導要領の改訂に合わせて、引き続き各校の実情に応じた取組を促す
- ・小学校は、各校の実情に応じた取組を促す
- ・神戸市作成のスライド教材、指導の手引き（小・中学校用）の活用
- ・推進モデル校での取組の周知（特に公開授業への参加要請等）の方法